

一一 対仏印関係

1 対仏関係と広州湾接收問題

601
昭和16年12月9日

「佛領印度支那共同防衛ニ關スル日本軍、「フ

「ランス」當局間現地軍事協定」及び附屬書

佛領印度支那共同防衛ニ關スル日本軍、「フランス」

當局間現地軍事協定

(假譯)

基礎要綱

一、在佛印「フランス」當局ハ佛領印度支那防衛ノ爲日佛
兩國間既存協定ニ從ヒ有ラユル手段ヲ以テ日本軍ト協力^(マニ)

スベシ

二、佛印當局ハ日本軍ノ作戦實施期間中佛印領土全般ニ互

リ治安ヲ確保シ以テ日本軍ノ後方ヲ安全ナラシムベシ

之ガ爲日本軍隊ハ佛印當局ト協力スルコトアルベシ

三、佛印當局ハ佛印領土内ニ於テ日本軍ニ對シ其ノ行動、
生存及軍事諸施設ノ設備ニ關シ一切ノ便宜ヲ供與スペシ
四、防衛ハ原則上左ノ如ク分擔セラルベシ

日本軍

南部佛印及日本軍ノ駐屯スルコトアルベキ其ノ地域

佛印軍

北部佛印兩軍隊ニシテ同一地點ニ駐屯スル場合ニハ該地
點ニ於ケル共同防衛ノ細目ハ別ニ之ヲ定ム

五、左記諸事項ニ關スル協力ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

防空

沿岸防備

航海及航空

運輸機關ノ使用

交通、通信

衛生

資材及労力ノ使用

防 謄
報道統制

昭和十六年(千九百四十一年)十二月九日河内ニ於テ

日本海軍最高指揮官代表 堀内海軍大佐(署名)

佛領印度支那總督 ドクー海軍中將(署名)

(假譯)

(附屬書)

「ドクー」佛印總督發佛印派遣日本代表宛書翰

拜啓陳者本官ハ閣下ニ對シ「フランス」當局及日本軍間ニ
締結セラレタル佛印共同防衛ヲ規律スル協定「テキスト」
ヲ別添送付スルノ光榮ヲ有シ候

本朝本官ガ聲明セル如ク本總督府ノ意圖スルトコロハ如何

ナル形式ニ於テモ日本陸海軍ノ作戦ヲ妨害スルガ如キコト

ヲ爲サザルコトニ有之本官ハ閣下ノ御要求通り右證據ヲ即

刻提出センガ爲本協定ノ末尾ニ署名セサルモノニ有シ候

「フランス」當局ガ日本軍ニ對シ其ノ作戦遂行ノ爲要求ス

ル諸便宜ヲ供與スベキハ自明ノコトナルモ如何ナル場合ニ

於テモ印度支那ニ對スル佛國ノ主權ガ尊重セラレ且一般政

務ノ遂行ガ保障セラルベキハ言ヲ俟タザルトコロニ有之候

然レドモ本官ハ佛國政府ト直接聯絡スルヲ得ザリシ次第ニ

シテ、或ハ本國政府ニ於テ既ニ日本國政府ニ對シ印度支那

ニ關シ本官ノ承知シ居ラザル約束ヲ爲シタルヤモ計リ難ク候

將來本官ガ本國政府ヨリ訓令ニ接シタル際ハ之ニ基キ閣下

ニ對シ新ナル討議ヲ申込ムコトアルベキモノト御諒承相成

候

昭和十六年十二月九日

佛印總督府ニ於テ

佛領印度支那總督ジー・ドクー(署名)

佛印派遣日本軍代表 殿

編注 細目規定は省略。

602 昭和17年4月24日 大本營政府連絡會議決定

「當面ノ對佛施策ニ關スル件」

當面ノ對佛施策ニ關スル件

一、大東亞及其ノ近傍ニ於ケル佛國領土ニ關シテハ差當リ帝

國ノ大東亞戰爭遂行ニ付實質的ニ之ヲ利用スルヲ主眼ト
ス特ニ佛印ニ關シテハ我方ニ對スル協力關係ヲ益々密ナ

ラシム

二、支那ニ於ケル佛租界ニ關シテハ實質的ニ我方ノ把握下ニ

在ランマルモ差當リ佛租界タルノ地位ヲ認ムルモノトス
三、佛國ノ國民政府承認ニ付テハ之ヲ督促セス

四、前記帝國施策ニ付テハ獨伊ヲシテ之ヲ尊重セシムルノミ
ナラス第一項ノ佛國領土ニ關シ獨伊トノ間ニ帝國ニトリ
不利ナル影響ヲ及ホスカ如キ取極ヲ爲サラシム様措置ス
五、爾餘ノ對佛施策特ニ獨伊ト佛トノ關係ニ付テハ主トシテ
獨伊ノ意向ヲ尊重ス

備考

(イ) 太平洋及印度洋方面ニ於ケル佛領諸島ニ關シ佛國側
ヨリ申出アルモ帝國ノ必要トスル時機迄ハ之ヲ取上
ケサルモノトス

(ロ) 廣州灣ニ關シテハ別途考慮ス

仏國と重慶政權の国交断絶の際の仏印側対応
につき仏印外交部長と会談について

ハノイ 11月16日後発

本省 11月16日夜着

第一四一六號(極祕)

十四日朝外交部長横山ヲ來訪會談一時間ニ及ヒタルカ其ノ
際同部長ハ佛本國自由地帶ニ樞軸軍進駐ノ結果「ザイシ」
政府ハ獨逸ノ意嚮次第ニテ重慶ト斷交スルヤモ知レス又重
慶側モ中南部諸國同様英米ノ御氣嫌取リノ爲進ンテ「ペタ
ン」政權トノ斷交ヲ決スルヤモ測ラレス右何レノ場合ニモ
佛印重慶ノ關係ハ當然斷絶ノ外ナキ筋合ナルヘク其ノ結果
ヲ考フルニ(イ)重慶側ハ積極的ニ攻撃態勢ヲ執ラサル迄モ用
心ノ爲國境防備ヲ強化スルコトアルヘク(ロ)我方モ之ニ應シ
現在以上ニ兵力ヲ用意スルノ要アルヘク(一八九五年國境
條約ニ基ク國境事件現地處理不可能トナル)(ハ)日本側モ北
部佛印防衛軍ノ增强ヲ要スルニ至ルヘシト思ハル處日本
側ノ本件ニ關スル御意嚮ハ如何ナルヘキヤ
自分ハ佛印トシテハ飽迄モ日本側ノ御希望ニ副フ様善處ス
ヘキモノト信シ居ル故不取敢自分個人ノ参考迄ニ貴意ヲ伺

ヒタシト述ヘタルニ依リ横山ハ本件ハ極メテ重要問題ナル

故遽ニ意見ヲ述ヘ難ク帝國政府ニ於テ政治上軍事上等ノ全般的見地ヨリ何等決定指示アルヲ待ツノ外無シト可然ク應酬ノ上最後ニ「尤モ斯ル場合ニハ日佛印關係ハ愈々本格的ニ友好的トナリ佛印現政權ノ立場ハ益々鞏固トナリ國內不服分子拂拭モ容易トナリ好都合ナラスヤ」ト述ヘ免モ角御話ノ次第大使ニモ御傳ヘスヘシト申シタル處同部長ハ之ヲ諒承セル趣ナリ

右ノ次第二テ重慶トノ斷交ハ何時實現スルヤモ知レサルニ付テハ我方トシテモ之ニ對處スルニ違算無キ様致度シ

河内、西貢ニ轉電セリ

大東亞大臣ニ轉報アリタシ



604 昭和17年11月21日 大本營政府連絡會議決定

〔現下ノ情勢ニ伴フ當面ノ對佛施策〕

●現下ノ情勢ニ伴フ當面ノ對佛施策

一、現下ノ情勢ニ鑑ミ帝國ハ大東亞ニ於ケル佛國領土竝權益ニ對シ差當リ左記ニ據り處理シ爾後ノ情勢ノ變化ニ備フ

ルモノトス

(一)佛印ニ對シテハ既定方針ニ據ルモ特ニ佛印ノ靜謐ヲ保持シ敵側ノ策謀ヲ封殺スルヲ主眼トシ更ニ帝國ニ對スル各般ノ協力ヲ一層積極的ナラシム

(二)廣州灣ニ對シテハ進駐ヲ準備シ重慶側ノ侵攻ノ虞アル場合機ヲ失セス進駐ス此際直前ニ佛側ノ了解ヲ求ム

(三)支那ニ於ケル佛租界ニ關シテハ既定方針ニ據ル

二、佛本國ニ關シテハ獨伊ノ意向ヲ尊重シ之ニ協力ス



605 昭和17年12月19日 在仏國三谷大使より
谷外務大臣宛(電報)

仏印總督府の權限拡張と仏本国からの独立性
確保につき意見具申

ヴィシー 12月19日前發

本省 12月21日前着

第五三九號(館長符號板)

(¹)河内發大東亞大臣宛電報第一二三號及一二四號ニ關シ

一、芳澤大使ノ御意見ニハ同感ナル處米英ノ北阿作戰後印支力唯一ノ植民地タルニ至リタル爲植民省方面ニ於テ印支

ヲ自己ノ仕事ノ繩張リトシテ其ノ權限確保ニ懸命ナル傾向顯著ナルニ鑑ミ我方カ印支總督權限擴張方ヲ抽象的一般的ニ申出ル時ハ此ノ方面ヨリスル抵抗大ナルモノアルヘク他方「ラバル」首相ニ於テハ大局上總督ノ權限擴張ノ必要ナル所以ハ之ヲ了解スルトスルモ彼ノ氣質ヨリ推シ我方申出ヲ裏附クル具體的問題ヲ提起スル方其ノ理解切實ナルヘク

⁽²⁾又彼自身カ我方要求ヲ容レタル上ニテ殖民省方面ヲ說得スル材料トシテモ何等カ現實ノ事實ヲ欲求スヘシ例へハ

今回ノ交渉進行中經濟財政問題文武官肅清問題等ニ關聯シ總督ノ權限小ナル爲不都合ノ生シタル機會ヲ捉へ之ヲ種ニシテ「ラバール」ニ總督ノ權限ノ擴張ノ必要性ヲ説キ以テ佛印政廳ノ權限擴大ト其本國ニ對スル獨立性等ヲ確保スル様措置スルコト得策ナルヘシト思考セラル

三、他面我方トシテハ此ノ際先ツ佛印當局ヲシテ我ト協力スル以外ニ生クル途ナキコトヲ徹底的ニ感得セシムルコトヲ必要トスル次第ニテ其ノ爲ニハ何處迄モ佛印相手ニ話合ヲ進メラルルヲ可トスヘク佛印側ヲシテ成ルヘク佛國ノ法制ニ拘泥セシメス彼トノ交渉ニハ專ラ「現實ノ必要」

606

昭和18年1月13日 在サイゴン鈴木(六郎)支部長代理より

青木大東亞大臣宛(電報)

仏印の対日協力等に関するドクーとの会談内

容につき報告

サイゴン 1月13日後発

本 省 1月13日夜着

第三三號

栗山事務總長ヨリ

(一)本官ヨリ芳澤大使ハ十二月十四日及二十四日ノ二回ニ亘リ既ニ充分日本政府ノ意嚮ヲ説明セラレタル次第ナルカ同大使ト貴總督トノ間ニ始メラレタル會談ヲ繼續スルニ當リ本官カ日本政府ト聯絡ヲ執リ歸任シタル次第モアリ芳澤大使ニ右ノ如キ訓令ヲ發スルニ至リタル日本政府ノ見解ヲ説明スルハ有益ナリト思考スル旨ヲ前置シタル上北阿及「ツウロン」ノ事件並ニ其ノ影響ハ日本政府ノ

ヲ以テ迫ラルル方此ノ際得策カト存セラレ斯クシテ總督自身自己ノ權限擴張ノ必要ヲ痛感セシムルコトヲ得ハ好都合ナルヘシ不取敢卑見申進ス

深甚ナル注意ヲ喚起セリ殊ニ昨年十月佛印ヨリ重慶ニ逃
避セル佛國將校力在佛印佛人ノ七割ハ同盟國最員ナリト
新聞ニ聲明セル經緯モアリ再ヒ同様ナル出來事カ佛印ニ
モ起ラスト云フコトハ何人モ保障シ得サルヘク他方昭和
十五年及十六年ノ日佛間諸協定カ締結セラレタル條件ハ
其後ノ豫見セサル事件ニ依リテ完全ニ覆ヘサレタル處之
モ諸協定カ法律的ニ無效トナリタルヤ否ヤノ問題ヲ惹起
セストモ尠クトモ或ル程度迄適用シ得サル狀態ニ陥リタ
ルコトハ確ナリ是等ノ理由ニ依リ日本政府ハ大東亞ノ現
狀ニ副フヘク日佛印關係ヲ積極的ニ検討スル必要ヲ認メ
芳澤大使ニ意見交換ノ訓令ヲ發シタル次第ナルカ現在ノ
佛國ハ少クトモ國際政治的ニハ其ノ自由ヲ失ヒ〔パラリ
ゼ〕居ルコトニモアリ條約改訂ハ差當リ適當ナラサルヘ
ク此ノ際寧ロ事實上ノ解決方法ヲ採用スルコト然ルヘシ
ト思料ス夫レニ付テハ貴總督ニ於テ「ヴィシー」政府ノ
訓令ヲ仰ク必要アリト爲スカ如キコトナク全責任ヲ執ラ
レンコトヲ要望スル次第ナリト述フ右ニ對シ「ドクー」
ハ逃避將校ニ付テハ何レノ國ノ軍隊テモアルコトニテ斯
ノ如キ者ノ言ヲ其ノ儘信用セラレサランコトヲ望ム又北

阿ノ事件ノ如キハ佛印ニテハ起リ得サルコトハ後ニ申上
クル通リナリ佛國ノ國際政治上ニ於ケル地位ニ付テハ貴
說ハ尤モナルカ一九四一年ノ諸協定カ其ノ後ノ事態ニ副
ハサルコトモ認ムルモ芳澤大使トモ意見交換ヲ爲セル結
果條約ノ有效性ヲ此ノ際問題トスルコトナク友好的解決
ヲ見出シ必要ナラハ暫定的取極ヲ爲スコトニモ異存ナシ
一々「ヴィシー」政府ノ訓令ノ陰ニ隱ルルカ如キコトヲ
爲ササルヘシ尤モ佛國ノ主權ノ維持(總督ハ松岡「アン
リー」協定ノ趣旨ヲ述フ)ト日佛印共同防衛ノ建前ヲ尊
重スル基礎ノ下ニ意見ノ交換ヲ爲スコト致度シト附加
シタルカ本官ハ主權尊重ノ件ニハ觸レス夫レヲ聞流シテ
條約問題ニ言及セルハ大東亞戰爭及佛國ノ現狀ヨリシテ
戰爭前ニ締結セラレタル協定ノ條項ヲ指スモノニシテ一
昨年十二月九日ノ軍事協定其ノモノハ茲ニ問題トナラス
而シテ暫定取極ト言フコトモ必スシモ必要ナラス要ハ事
實上ノ解決方法ヲ見出タスニアリト述ヘタルニ總督ハ右
ノ趣旨ニ同感ナリト答ヘタリ

(二)次ニ本官ヨリ調整スルニ當リ先ツ政治關係ノ問題ヲ吟味
スヘシトテ芳澤大使カ十二月十四日ノ會談ニモ述ヘラレ

タル如ク過去ノ經驗ニ徵スルニ貴總督ノ協力政策ハ日本政府トシテハ消極的ニシテ東亞ニ於ケル戰爭ノ必要ヲ満足セシムル性質ノモノニアラスト認メ居レリ又言フ迄モナク大東亞共榮圈ニハ佛印モ入り居リ其ノ共榮圈ノ全部カ日本カ米英及其ノ同盟國ニ對シ遂行シソアル戰爭ニ或ル程度捲キ込マレ居ルモノナリ大東亞共榮圈ニ屬スル一員ノ安危ハ即チ他ノ構成員ノ安危ニシテ佛印ハ日本ノ陣營カ然ラスハ相手ノ陣營ヲ撰ハサルヘカラス此ノ際中間ノ陣營ナルモノハアリ得スト思考ス佛印ノ福祉ノ爲ニハ唯一ツノ途即チ貴總督ノ採ラレタル日本トノ協力ノ途ヨリナカルヘシ而シテ其ノ協力ヲ效果的ナラシムル爲ニハ日本トシテハ佛印ノ靜謐カ確保セラルコトニ關心ヲ持タサルヲ得ス然ルニ昨年ノ種々ノ不幸ナル事件(憲兵事件等ヲ指ス旨ヲ述フ)及北阿弗利加ノ事件ニ鑑ミ日本トシテハ右靜謐カ佛印外部ノ敵ニ對シテノミナラス内部ノ敵ニ對シテモ確保セラルル爲積極的ナル措置ヲ採ラル様貴總督ニ要求スル充分ナル理由アリ而シテ之カ爲ニハ對日協力政策ニ反対ナル分子ハ素ヨリ如何カハシキ分子ヲモ總テ排除シ且斯カル分子カ日本ノ利益ヲ害スル爲

佛印ヲ其ノ陰謀ノ基地ト爲スコト能ハサル様積極的保障ヲ要求スルモノナリ客月二十四日芳澤大使ハ是等ノ措置ノ例トシテ肅清ノ問題ト佛印ニ於ケル敵人並ニ中立人取扱ノ二問題ヲ提出セラレタルカ結局日本政府カ貴總督ニ求ムル所ハ此ノ際一層態度ヲ明確ニシ從來ノ中立的態度ヲ捨テ對日協力ヲ效果的ナラシムル爲積極的措置ヲ採ラントヲ要望スルモノナル旨ヲ述ヘタリ

右ニ對シ總督ハ貴官カニ陣營ノ中一ヲ撰ヘト述ヘラレシ處自分ハ二ツノ馬ニ賭ヲナスカ如キ意嚮ハ有セス自分ノ態度カ明カニナラスト言ハルルモ日本ノ敵側例ヘハ「ニユーデリー」等ヨリノ放送ヲ聞カルレハ自分カ彼等ヨリ如何ニ取扱ハレ居ルコトニ依リテモ充分知ラレ得ヘシ佛印カ大東亞戰爭當初以來日本軍ノ爲ニ盡シタルコト且之ニ對シ「サボタージュ」ノ行爲一ツタニナキヲ以テモ自分ノ態度ハ了解セラレ得ヘシト述ヘ又自分モ佛印内ノ秩序及靜謐ノ確保セラルルコトニ付テハ日本側ニテ佛印政府ノ對土民問題(獨立運動問題ヲ指ス)ニ付障害ヲ加ヘラレサル限り凡有ル保障ヲナシ得ヘシト答ヘタルニ付本官ハ言葉ノ上ノ保障ヲ求ムルモノニアラスシテ肅清ヲ徹底

セシメ又通敵行爲ノ禁壓等積極的ナル措置ヲ採ラレンコ
トヲ要求スルモノナリ又協力ノ問題ハ結局人ノ問題ニモ
歸シ本官カ貴總督ニ信賴シ得ルトシテモ果シテ貴總督ノ
同僚(部下)ニ信賴ヲ置キ得ルヤモ問題ナルヘシト述フ

右ニ對シ總督ハ獨佛關係ト曰佛關係ノ現狀ハ異ナリ獨佛
ハ僅ニ休戰關係ニアリテ比較ニナラヌ特ニ自分ハ北阿事
件發生直後「ペタン」元帥ニ忠誠ノ發電ヲ爲シ佛印ノ進
ムヘキ途ヲ明カニシタル等ヨリスルモ阿弗利加事件ノ如
キ當地ニテ起リ得サルモノナリ又自分ノ同僚部下モ總務
長官ハ自分ト同體トモ謂ヒ得ベク「モルダン」將軍又
「ペタン」ニ忠實ニシテ何レモ信賴シ得ヘキ人物ナリ而
シテ自分カ二年前着任セル以來財務長官(英總領事ト
陰謀ヲ計ラントセル形跡アリシト述フ)土木局長等「ド
ゴーリスト」派ト目セラルル官吏二百人以上ヲ罷免シ肅
正ニ盡シ居レリト答フ

右ニ對シ本官ハ過去ノ行爲ニ對スル制裁ヨリモ將來ニ對
スル豫防的措置ヲ要望スル點ヲ指摘シタル處總督ハ嫌疑
者モ南佛印「ロングスエン」ニ收容セルモノ十名又現ニ
去ル十二月八日ニハ三名ニ對シ行政的抑留ヲ行ヒ又西貢

「ショロン」地方ノ在住ヲ禁止サレタルモノ二十名ヲ算
シ御希望ナラハ「リスト」ヲ送リ差文ナシ
「デペツシユ」紙ノ持主ノ如キ右ノ中ニ含マレ目下嚴重
ニ監視セラレ居ル狀態ナリ

尙極祕事項ナルモ「シャム」灣ニ於テ亞米利加潛水艦カ
海岸ト通信セントセル形跡アリタルニ依リ「ベランジエ」
少將ヨリ直ニ日本海軍ニ通報シタル如キ又協力シテ掃海
ヲ爲シ居ルカ如キ尙北部佛印ノ防衛ノ協力方ニ付テモ日
本陸軍ニ申出タル等佛印側ノ態度モ御了解ヲ得度ク又肅
清ニ付テハ芳澤大使ニモ御話置キタル通り日本側ニ通報
スヘク又日本側ヨリモ必要ニ應シ通報ヲ得度ク今後トモ
佛印警保局長ト大使府及該憲兵隊トノ間ニ於テモ密接ナ
ル聯絡ヲ採ラシムヘシト述ヘタリ敵人取締問題ニ付テハ
既ニ我方方針ヲ容レ且具體的ニ話合進ミ居ルニ付本官ハ
之ニ言及スルヲ避ケ政治關係ニ付テハ先ツ話ヲ打切り次
回ハ政治以外ノ問題ヲ吟味スルコトトセリ

「ヴィシー」ヘ轉電セリ



昭和18年1月14日 大本營政府連絡會議決定

ついて

「當面ノ對佛措置ニ關スル件」

●當面ノ對佛措置ニ關スル件

一、在支佛租界返還等慾憲方ニ關シテハ取敢ス佛ニ對シ帝國ノ方針ニ同調ヲ希望スル旨並ニ其ノ具體的事項ニ關シテ

ハ改メテ協議スヘキ旨申入ル

二、在佛重慶側外交機關ノ退去ニ關スル獨ノ對佛申入ハ之ヲ諒トス

但シ佛印ニ對スル帝國ノ既定方針ニ鑑ミ獨ニ對シテハ勉メテ急激ナル措置ヲ差控ヘシムル如ク施策ス

三、帝國ハ北部佛印及廣州灣方面ニ對スル重慶側ノ侵攻アル場合ヲ考慮シ之カ對策ヲ促進ス

但シ廣州灣進駐ノ時機竝ニ其ノ對佛申入レニ就テハ既定方針ニ據ル



昭和18年1月14日 在北京塙沢公使より
青木大東亞大臣宛(電報)

仏租界問題に關し在中国仏國大使より聽取に

K第一號

本官發南大宛電報

第一六號

北 京 1月14日後發
本 省 1月14日夜着

閣下ノ御意嚮ヲ含ミ十三日土田ヲ派シ「コスマ」大使ニ對シ租界返還問題一般特ニ北支トシテ(一)公使館區域及(二)天津佛租界ニ關スル佛國側協力ヲ要請セシメタル處同大使トンテハ根本ノ方針トシテ現下日佛關係ノ大局ニ鑑ミ友人ノ間柄ヲ以テ出來得ル限りノ協力ヲ盡スヘキ決心ナル旨閣下ニ傳達方ヲ依頼スルト共ニ(一)ニ付テハ日支間ノ話合付ク場合東京ニ於テ佛大使ニ接觸セラルコトナルヘキカ自分ノ思付キトシテハ私人ノ既得權益ノ擁護及護衛隊ノ存否ノ問題ヲ決定シ得レハ佛國政府トシテ問題無カルヘク又(二)ニ付テハ自分カ南京ニ赴キテ話合ヘレハ最モ簡單ナルモ現在ノ立場ニテハ之モ出來ス結局ハ東京ニ於ケル兩國當局ノ接觸ニ依リ兩政府ニ於テ何等ノ妥結ヲ考案シ得ヘシト考フ支那各地何レノ問題ニ關シテモ自分ニテ御役ニ立ツコトアラハ

重光大使ヨリ何ナリト御註文ヲ受ケタル上意見打診等モ致スヘシト述ヘタル趣ナリ尙土田ヨリ南京ノ交渉ノ進捗狀況ニ付テハ差支無キ限り内報シ佛側ノ我方ニ對スル協力カ實效果ヲ擧ケ得ル様盡力スヘシト述ヘ置キタル趣ナリ不取敢大臣、士大、天津、漢口へ轉電セリ

609

昭和18年1月15日

谷外務大臣より
在仏国三谷大使宛(電報)

在ヴィシー重慶側外交機関の退去に関する対

仮申入れにつき訓令

本省 1月15日後8時20分発

第一六號(館長符號拔)

貴電第七號ニ關シ

佛印ニ對スル帝國ノ方針ハ客年往電第三七五號^(編注)ノ通リニシ

テ佛印ノ靜謐ヲ保持スル意味ヨリ佛印ニ對スル重慶側ノ行動ヲ誘致スルカ如キ措置ハ成ルヘク之ヲ避ケ度キ意向ナリ(以上貴大使限リノ御含迄)依テ不取敢本大臣發在獨大使宛電報第四二號ノ通り獨側ニ申入ルルコトセルカ佛側ニ對

スル貴大使ノ應酬トシテハ「帝國政府トシテハ獨側申出ハ

尤モナリト思考シ佛國側ニ於テ獨側申出通り措置セラルルコト可然ト存スル處本件ニ關シテハ目下日獨間ニ他ノ問題ト共ニ詰合中ナルニ付本件實行ノ時期等ハ改メテ獨側又ハ帝國政府ヨリ貴方ニ申出ツルコト致度キ旨」申入レラレ度シ(申入ハ獨宛往電第四二號獨側ヘノ申入ノ結果ヲ俟タレ度シ)

獨ヘ轉電アリ度シ

本電貴電第七號ト共ニ伊ヘ轉電アリ度シ

南京へ轉電セリ

編注 昭和十七年十一月二十一日、大本營政府連絡會議決定

「現下ノ情勢ニ伴フ當面ノ對佛施策」(本書第604文書)

を伝えるもの。

610 昭和18年1月15日

谷外務大臣より
在独國大島大使宛(電報)

在ヴィシー重慶側外交機関の退去に関する対

仮申入れにつき訓令

本省 1月15日後8時45分発

第四二號(館長符號扱)

在佛大使發本大臣宛電報第七號ニ關シ

佛印ニ對スル帝國ノ方針ハ成ルヘク佛印ノ靜謐ヲ保持スル

ニ在リ依テ在佛重慶側代理大使ヲ急速且強制的ニ退去セシ

ムル結果佛印國境ニ於テ佛支間ニ事ヲ構フルニ至ルカ如キ

ハ當方ニ於テ好マサル所ナリ(以上貴大使限リノ御合迄)就

テハ當方トシテモ獨側對佛申入ノ趣旨ハ之ヲ諒トシアルモ

冒頭來電ニ依レハ在佛支那大使館ハ取締嚴重ニテ外部トノ

交通、通信等遮斷セラレ居ルト同様ノ狀態ニテ其ノ存否ハ

差シテ獨軍ノ安全ニ影響スルコトナク從テ獨側ニ於テ立退

キヲ特ニ急速ニ實現セシメサルヘカラサル理由ニ乏シキヤ

ニ察セラル處貴大使ハ此ノ點ニ關シ獨側ノ意向ヲ訊シタ

ル上「本件ニ依リ重慶側カ如何ナル行動ニ出ツルトモ我方

ニ於テ之ニ對スル充分ナル備ハアルモ我方トシテハ佛印ヲ

能フ限り經濟的ニ利用スル方針ニテ目下種々施策中ニモア

リ差當リ成ルヘク佛印ノ靜謐ヲ保持シ度キ意向ナリ依テ獨

逸側ニ於テ異議ナキニ於テハ在佛大使宛往電第一六號括弧

内ノ通り佛側ニ申入ルルコト致度キニ付了承アリ度キ旨

申入レラレ結果當方及在佛大使ニ電報相成度尙本件ノ如キ

大東亞地域内ニ於ケル我方施策ニ影響スル問題ニツキ事前

ニ我方ト協議スルコトナク獨側單獨ニ處理スルコトハ(獨

側ハ勿論善意ナルヘキモ)面白カラサルニ付前記申入ノ際

適當先方ノ注意ヲ喚起シ置カレ度シ

佛伊ニ轉電アリ度ン

南京へ轉電セリ



611 昭和18年1月15日

谷外務大臣より
在獨國大使宛(電報)

仮租界返還問題に関する對独指導方針について

本省 1月15日後8時発

第四三號(館長符號扱)

往電合第七號ニ關シ

帝國ノ對佛印方針ハ往電第四二號ニ依リ御承知ノ通リナル處佛國ノ在支租界返還問題モ同國ノ國民政府承認問題等ヲ惹起シ當然重慶側ト佛印トノ關係ヲ考慮スル要アリ當方ニ於テハ之カ取扱ニ慎重ヲ期シツツアルニ付貴方ニ於テモ右御含ノ上佛國ニ對スル獨逸ノ租界返還斡旋ハ追テ當方ヨリノ連絡ヲ俟ツテ實行セシメ夫レ迄ハ獨側ニ於テ先驅ケテ積

極的ニ佛側ニ工作セサル様適當獨側ヲ御指導相成度

右ノ趣旨ハ往電第一二號末尾ニ於テ御推察ノコトト存スル

モ爲念

佛、伊ニ轉電アリ度

南京へ轉電セリ

612 昭和18年1月16日

在独國大島大使より
谷外務大臣宛(電報)

仏印の靜謐保持方針の再検討方意見具申

ベルリン 1月16日後発

本省 1月18日後着

第七七號(館長符號板)
貴電第四二號ニ關シ

一、「ラバル」ノ三谷大使ニ對スル申出カ南京政府ノ參戰前ニ行ハレタルモノナルコトハ御承知ノ通リナル處先般南京政府ノ參戰ヲ見世界ニ對シ大々的ニ宣傳ヲ行ヒ又獨ニ對シテ種々ノ申入ヲ行ヒタル直後恰モ佛ニ對シテハ重慶政府トノ關係ヲ維持セシムルコトヲ希望スルカ如キ申入ヲ爲スハ唯ニ大義名分ニ反スルニ止マラス帝國政府ノ大

東亞共榮圈建設ニ關スル眞意ニ大ナル疑惑ヲ生セシムル惧アリ

二、貴電ニ依レハ本件申入ヲ爲ス理由ハ佛印ノ靜謐ヲ保ツニ在リト認メラル處現ニ支那ヲ基地トスル米機ノ河内爆撃行ハレ居リ若シ重慶側ニ能力有リトセハ陸上ヨリノ攻撃ヲモ行ハレ得ヘク佛支間ノ政治關係カ現狀ニ何等影響ヲ及ホシ得ルモノトハ常識的ニ考ヘ得サルコトニシテ貴電ノ如キ申入ヲ爲スハ恰モ帝國カ佛印ノ治安維持ニ戰々競^(競争)タルモノアリヤノ印象ヲ與ヘ帝國ノ軍事力、政治力ハ鼎ノ輕重ヲ問ハルニ至ラン

三、今尙「佛印ニ對スル帝國ノ方針ハ成ルヘク佛印ノ靜謐ヲ保持スルニアリ」トノミ謳ハレ居ルハ率直ニ申上クレハ甚タ不見識ナル話ニテ少ク共佛印處理ニ關スル將來ノ根本方針位ハ此ノ際決定セラレアルヲ要スルモノト思考ス蓋シ差當リ佛印ノ靜謐ヲ保ツコトニ重點ヲ置カルルハ止ムヲ得ストスルモ唯時ノ便宜ノミニ引摺ラルニ於テハ思ハス大東亞共榮圈建設ノ理想ニ背馳スルカ如キ事態ヲ生シ將來ニ禍根ヲ貽スコトナルヘキ惧アリ佛本國自體ハ既ニ獨軍ノ占領スル所トナリ佛海軍モ全ク潰滅シ北阿

ノ植民地亦四分五裂セラレタル現状ヲモ睨合セ速ニ我根

本方針ノ決定セラレンコトヲ切望ス

四、之ヲ要スルニ本件ハ事些細ナリト雖モ其ノ及ホス影響ハ極メテ重大ニシテ帝國外交竝ニ我國力ニ對スル信用ニモ關スルモノアルヲ以テ敢テ卑見ヲ申進セル次第ニシテ佛カ右申入ヲ爲セル眞意ハ遽ニ判斷シ難キモ豫メ爲シ得ル限り大東亞權益ヲ擁護シ又獨ノ壓力ヲ支ヘンカ爲東亞ノ事態ニ引掛ケ帝國ヲ利用セントスルニアルヤニモ考ヘラル就テハ至急御再考ノ上何分ノ儀御回電ヲ請フ

佛、伊ヘ轉電セリ

南京ヘ轉電アリタシ

613 昭和18年1月18日

在仏國三谷大臣(谷大臣宛より)

谷外務大臣宛(電報)

租界及び治外法権放棄宣言を行ふ用意ありと
のラヴァル発言への対応振り請訓

ヴィシー 1月18日後発
本省 1月20日後着

第二八號(大至急、館長符號扱)

十八日午後「ラバル」ノ求メニ依リ往訪シタル處支那問題ニ關シ

一、今般貴國ニ於テ支那ノ租界治外法権ヲ汪政權ニ返還セラレ伊太利亦之ニ倣ヒ佛國ノミ依然之等ノ特權ヲ維持スル形トナリ甚タ時勢ニ副ハサルモノアリ自分トンテハ決シテ之等特權ヲ惜ムモノニアラサルヲ以テ拋棄ノ宣言ヲ致度キモ右特權ハ總テ日本ノ勢力範圍即チ汪政權下ニアリ從テ右宣言ハ汪政權ニ對シナスニアラサレハ無意味ナル處佛カ未タ同政權ヲ承認セス重慶政府ト國交ヲ保持シ居ル所以ノモノハ先日モ申上ケタル通り佛印ノ關係上重慶ヲ挑發スルコトヲ恐ルルカ故ナリ而シテ前記宣言ヲナントスルニ當リテハ重慶トノ國交斷絶ヲ豫期セサルヘカラサルヲ以テ先日申上ケタル獨逸ノ要求ニ對スル日本ノ御回答如何ニ依リ本件ノ決定ヲモ致度シ要スルニ自分ハ

日本ノ御意嚮通りニナスヘク日本トノ了解ノ上ナラテハ何等ノ措置ヲ執ラサルシ日本カ前記宣言ヲ希望セラルレハ直ニ之ヲナスヘク又對重慶關係上暫ク待テト言ハルレハ待ツヘシ唯日本カ右宣言ヲ猶豫スルコトヲ希望セラルル場合ニハ南京政府ニモ其ノ旨ヲ含メテ佛利權殊ニ上

海ノ佛租界ニ對シ一方的ニ手荒キ措置ヲ執ラサル様御配慮ヲ請ヒタシ

二、往電第七號ノ件ニ關シ更ニ獨側ヨリ書面ヲ以テ重慶代表ヲ他ノ獨ノ敵國代表者ト同様一定場所ニ強制居住ノ措置ヲ執ル様要求シ來レリト語レリ右ニ對シ本使ハ當地重慶代表ノ處置ニ付テモ未タ訓令ニ接セサル處今日御申出ノ件早速電報ノ上訓令ヲ請フヘキ旨約シ置ケリ就テハ何分ノ儀至急御回電ヲ請フ

獨ヘ轉電セリ

oooooooooooo

614 昭和18年1月21日

谷外務大臣より
在中国重光大使宛(電報)

租界及び治外法權放棄に關する仏國側意向を

ふまえ對仏說得工作自重方訓令

本省 1月21日後7時30分發

第三六號(館長符號扱、緊急)

本大臣發獨宛往電第四二號及佛宛往電第一六號ニ關シ

佛印ノ靜謐ヲ保持セントスル帝國ノ方針ハ御承知ノ通リナ

ル一方「ラバル」ハ既ニ三谷大使ニ對シ佛國トシテハ何時

ニテモ其在支租界及治外法權等ノ特權放棄ノ宣言ヲ爲ス用意アル旨(在佛大使來電第二八號參照)言明シ居リ此レ以上貴地又ハ北京ニ於テ佛側ヲ說得スル必要モナク却テ冒頭我方方針ノ建前ヨリ此ノ上ノ說得ハ不必要ト存セラルニ付右御含ノ上御措置相成度西班牙等ノ其他ノ關係國ニ對シテモ我方ヨリ未タ何等申入レ居ラサルニ付貴方ニ於テモ當方ヨリノ連絡ヲ俟チ工作セラルコト可然ト存ス

大東亞省ト打合濟
北京、上海ニ轉電セリ
河内、西貢ヘ轉電セリ

615 昭和18年1月22日

谷外務大臣より
在仏國三谷大使宛(電報)

仏印靜謐保持の觀点から租界及び治外法權放棄宣言の延長を仏國側に申入れるよう訓令

本省 1月22日後5時40分發

第二五號(館長符號扱、緊急)

貴電第二八號ニ關シ

諸般ノ事情ヨリ成ルヘク佛印ノ靜謐ヲ保持セントスル帝國

二 対仏印關係

ノ方針(大本營政府連絡會議決定)ハ尙當分之ヲ變更セサル
必要アル實狀ニシテ重慶側外交機關ノ處理及在支佛租界返
還等ノ宣言ハ今暫ク之ヲ延期セシメ度キ意向ナリ就テハ往
電第一六號貴大使ノ「ラバル」ニ對スル應酬ヲ左ノ通り改
メ在獨大使ノ對獨申入ノ結果ヲ俟チテ佛側ニ申入レラレ度
シ

(新案)「帝國政府ニ於テハ佛國政府カ東亞ノ事態ヲ認識シ
帝國ノ對支措置ニ同調シテ在支佛租界等ノ返還及治外法權
撤廢ヲ實行セラレントスルハ甚々欣快トスル所ニシテ國民
政府ニ於テモ佛側措置ヲ感謝スルモノナルコトヲ信ス又重
慶側外交機關ノ處理ニ關スル獨側申出ハ尤ナリト思考セラ
レ佛國側ニテ獨側申出通り措置セラルルコト可然ト存ズ唯
本件ノ實行ニ關シテハ目下日獨間ニモ話合中ナルニ付之等
ノ實行ノ時期等ハ改メテ獨側及帝國政府ヨリ貴方ニ申出ス
ルコト致度勿論日本トシテハ國民政府ニ於テ一方的ニ在
支佛國權益ヲ處理スルカ如キ措置ニ出テサル様交渉致スベ
シ」

尙當方ニ於テ此等諸問題ヲ成ルヘク速カナル機會ニ處理致
度キ意向ナルコト獨宛往電第六〇號末段ノ通リナリ

獨伊ニ轉電アリ度シ

南京、北京、上海ニ轉電セリ

河内、西貢ニ轉電セリ

~~~~~

616 昭和18年1月22日

谷外務大臣より  
在獨國大島大使宛(電報)

### 仏印靜謐保持の方針をふまえ對独申入れの実 行方改めて訓令

本省 1月22日後5時40分發

第六〇號(館長符號、緊急)  
貴電第七號ニ關シ

御來示ノ次第ハ當方ニ於テモ豫メ充分考慮ヲ加ヘタルカ諸  
般ノ事情ヨリ結局大本營政府連絡會議ニ附議ノ上今次申進  
ノ措置ニ出ツルコトニ決定セル次第ナルニ付右御含ノ上佛  
宛往電第二五號ヲ參照セラレ往電第四二號對獨申入末段ノ  
括弧内云々ノ部分ヲ訂正シ可然御措置相成度

勿論當方ニ於テハ本件及佛租界返還問題ヲ何時迄モ未解決  
ノ儘トスル意向ナク諸般ノ情勢トニラミ合セ成ルヘク速カ  
ナル機會ニ之ヲ解決シ度キ意向ニ付其際ハ改メテ申進スヘ

以上嚴ニ貴大使限リノ御含迄

佛、伊ニ轉電アリ度シ

南京、北京、上海ニ轉電セリ

617 昭和18年1月23日 在上海海田尻公使より  
谷外務大臣宛(電報)

仏租界問題及び對重慶斷交に関する在中国仏

國大使との会談につき報告

上 海 1月23日後発  
本 省 1月23日後着

<sup>(1)</sup> 第一號(緊急)  
重光大使ヨリ

二十三日午前「コスム」佛大使來訪

一先ツ佛大使ヨリ左ノ通り述フ

(一)支那ニ於ケル今日ノ事態ニ鑑ミ自分ハ佛國トシテハ完  
全ニ日本ト協調スヘキモノト思考シ租界及治外法權ノ  
問題ニ付テモ日本ノ措置ニ做フヘキヲ進言シ本國政府  
ノ承認ヲ得タリ

二、本使ヨリ以上先方ノ表明セル内容ヲ更ニ確メタル上質問  
シタルニ對シテ「コスム」ハ更ニ左ノ通り答ヘタリ  
(一)斷交シタリトテ自分ハ重慶カ宣傳スルカ如ク軍隊ヲ以  
テ押出スカ如キコトヲ信セス唯小規模ノ宣傳的進出又

(二)唯困難ナルハ重慶トノ關係ナリ政治的ニ考フレハ何レ  
重慶ト斷絶スルヲ可ト信スルモ若シ佛印ニ於ケル軍事  
ノ必要上佛政府ニ於テ重慶ト斷交スルヲ不可トスレハ  
南京ニ對シテハ事實上ノ關係ニ入りテ事態ヲ處理スル  
ノ要アリ

重慶ト斷交シテ現狀ヲ解決スルヤ又ハ斷交セスシテ南  
京ヲ「デ、ファクト」政府ト認メテ問題ヲ解決スルヤ  
ハ東京「ヴィシー」間ノ交渉ノ結果ヲ待ツノ外無シ

(三)若シ斷交ヲ欲セストナラハ自分ノ考ヘハ租界及治外法  
權問題ニ付テ先ツ支那國民一般ニ宛テタル宣言ノ形ヲ  
以テ意思表示ヲナシ然ル上ニテ南京側トノ間ニ取極ヲ  
ナシ南京ヲ事實上承認シテ結末ヲ附ケ而シテ南京ニハ  
領事館ヲ置キ自分モ時々行キテ南京政府ト接觸ヲ採ル  
コトト致スヘシ何レニシテモ貴大使ノ指示ニ依ルコト  
トスヘシ

ハ内部攬亂策ニ手ヲ着クルコトハアリ得ヘシ但シ此ノ

點ハ軍事上ノ判斷ニ俟タサルヘカラス

(二)南京ヲ事實上ノ政府トシテ承認セル際重慶ハ進ンテ

斷交スト思フヤトノ質問ニ對シ重慶ハ斷交セサルヘ

ク此ノ點ハ自分ノ確信スル所ナリ從來佛印ノ協同作戰

取極ノ際モ經濟協定ノ際モ亦租界法院問題(羅カ)ヲ南京政府

ト取極メタル際モ何等其ノ氣配無カリキ租界法權問題

ノ處理ハ寧口支那一般ノ喜フヘキ所ニシテ之カ爲ニ斷

交ヲ決スルカ如キコト斷シテ無シ

(三)北京公使館區域等ノ處分ニ付テハ素ヨリ何等ノ異存無

キニ付御決定ノ上ハ成ル可ク速ニ御知ラセヨ受ケタク

自分ニ於テハ日本側ノ希望セラルルカ如ク善處スヘシ

(「コスマ」大使ハ公使館區域ニ付テハ尙專任大使ノ資

格ニ於テ處理シ居レリ)尙上海租界等ノ處置ニ付テモ

一ニ貴大使トノ聯絡ニ依ツテ日本側ト同一ノ態度ヲ以

テ善處スヘシ

南大、北大へ轉電セリ

佛へ轉電アリ度シ

618 昭和18年1月23日 在独国大島大使より 谷外務大臣宛(電報)

在ヴィシー重慶側外交機関の活動振りに関する  
獨國機関員の内話について

第一〇〇號(館長符號板)

佛發貴大臣宛第七號及貴電第四二號ニ關シ

在「ヴィシー」獨機關員「ライヘ」且下在伯中ナルカ二十

二日館員ニ語ル處左ノ通り

一、舊非占領地域ニ於テハ行政權ノ大部ハ依然トシテ佛側ニ

アルヲ以テ同地域ニアル獨軍ノ地位ハ純然タル占領軍ト

ハ稍異ナルモ米側ニ於テ北阿上陸ノ際獨領事館員及休戰

委員等ヲ監禁セルヲ以テ右ニ對應シ在「ヴィシー」米大

使館員ヲ監禁シ目下「バーデンバーデン」ニ在リ從テ

「ヴィシー」ニ殘存スル唯一ノ敵國外交官ハ支那大使館

員ナリ

二、獨軍進駐前米カ「ヴィシー」ニ於テノサバリ居リタル當

時米側ト最モ接近シ居リタルハ支那ニシテ而モ米側ヨリ

資金ヲ受ケ全ク其ノ手先トシテ諜報勤務ニ從事シアリタ  
ルコトニ付テハ獨側ニ於テ確タル證據ヲ握リ居レリ素ヨ  
リ獨軍進駐後ハ嚴重ニ監視シ居ルモ何分目下ノ佛ノ如ク  
其ノ行政權ニ充分ノ信賴ヲ置ク能ハサル狀況ニ於テ支那  
大使館員カ從來ノ因縁ヲ辿リ何時活動ヲ始ムルヤモ計ラ  
レサルヲ以テ獨トシテハ之カ存在スルハ不快トスル處ナ  
リ云々

佛、伊ヘ轉電セリ

619 昭和18年1月23日

在独國大島大使より  
谷外務大臣宛(電報)

重慶側外交機關のヴィシー退去につき意見呈申

ベルリン 1月23日後発

本省 1月25日前着

第一〇九號(館長符號)

貴電第六〇號ニ關シ

正式ニ獨側意嚮ヲ質シタル譯ニハアラサルモ往電第一〇〇  
號ニ依リ獨側ノ主張ハ明瞭ニシテ而モ右ハ法律的ニモ實質

的ニモ充分ノ根據アルモノト認メラル素ヨリ目下ノ日獨側  
然贊成ニシテ貴電ノ如ク「重慶機關存置ヲ希望スル」モノ

係ニ於テ曰本側ヨリ特ニ希望スルニ於テハ理由ノ如何ヲ問  
ハス獨側ニ於テ我力要望ヲ容ルヘシトハ存スルモ何分ニモ  
日本側ヨリ「ヴィシー」ノ重慶機關存置ヲ希望スルコトカ  
如何ニモ奇妙ナル丈ケ或ル程度ハ其ノ説明ヲ必要トシ其ノ  
結果ハ往電第七七號ノ如キ誤解ヲ生スル虞アルヲ憂フルモ  
ノナル處貴電第四二號ニモ先ツ「獨側ノ意嚮ヲ質シタル上」  
ト謳ハレ居ルヲ以テ爲念更ニ御伺スル次第ナリ折返シ御回  
電ヲ請フ

佛ヘ轉電セリ

620 昭和18年1月26日

谷外務大臣より  
在独國大島大使宛(電報)

仏印靜謐保持の觀點から重慶側外交機關のヴィ

シー退去一時延期につき獨國側と折衝方訓令

本省 1月26日後6時発

第六五號(館長符號、緊急)

貴電第一〇〇號及第一〇九號ニ關シ

獨側主張ハ充分ニ根據アリ我方ニ於テハ獨ノ對佛申入ニ全  
然贊成ニシテ貴電ノ如ク「重慶機關存置ヲ希望スル」モノ

ニアラサルコトハ屢次ノ往電ニ依リ御承知ノ通りナリ唯之

力急激ナル實行ニ依リ佛印國境ニ於テ重慶側ト事ヲ構フル

ニ至ルコトハ今暫ク之ヲ避ケタキ特殊ノ事情アルヲ以テ單ニ實行ヲ一時(之レモ長キコトニアラズ)延期セシメントス

ルニ過キス而シテ其ノ理由トシテハ往電第四二號ノ如ク現ニ佛印ノ對日協力強化ニ關シ我カ特派大使ト佛印總督間ニ話合中ニモアリ當分佛印ノ靜謐ヲ保持シ度キ希望ナル旨ヲ以テ應酬スルコトシ度ク右ハ多少ノ無理アリトスルモ前記我方特殊ノ事情ヨリ已ヲ得サル次第ナリ

就テハ右ノ事情篤ト御諒察ノ上至急獨側ニ接衝セラレ在佛大使ニ於テ速ニ「ラバル」ニ回答シ得ル様取計ラハレ度シ佛ヘ轉電アリ度シ

~~~~~

621 昭和18年1月27日 在広東大閥(英達)總領事代理より

青木大東亞大臣宛(電報)

重慶政権による広州湾武力回収に関する情報

について

広 東 1月27日夜發
本 省

(欄外記入)

K第八號(至急)

當地海軍經由在廣州灣戶根木副領事ヨリ左ノ通

(欄外記入)
最近重慶側ノ廣州灣武力回收傳ヘラレ居ル處之ニ關スルP
A 重慶情報左ノ如シ

英米側ヨリ蔣ニ對シ「ド、ゴール」派ヲシテ在支佛國特權撤廢宣言方提議セルニ對シ蔣ハ今次英米ノ不平等條約廢棄ハ左シテ實益ヲ伴ハサル憾アルモ本件ハ斯カル缺點ヲ補ヒ軍民ノ士氣ヲ鼓舞シ得ヘシトノ見地ヨリ大イニ心ヲ傾ケタルモ一方宋子文ハ英米ノ本件提議ノ底意ハ廣州灣ノ回収ニ依リ曰支唯一ノ通路ヲ斷ツニアルヘク右實現ニハ武行使ノ要アルヘク現在以上戰線ヲ擴大スルハ極メテ困難ナルノミナラス大局ニ當リ左シテ益ナキ次第二付戰後政治保障ニ依リ解決スルコトニシテ此ノ際ハ處理スヘキ廣州灣ノ特殊環境ヲ利用シ物資ノ取得ニ努ムヘキナリトシテ強ク反對シタル結果腹臣ノ徐璋ヲ廣州灣ニ派シ物資取得狀況ヲ查察セシムルコトナリタル由

南大、北大、北大、河内、西貢大ヘ轉電セリ

萬一我方進駐ノ場合ノ好箇ノ宣傳材料ナリ

「ヴィンシー」轉電セシム

622

昭和18年1月29日

在中国重光大使より
谷外務大臣宛(電報)

仏租界返還等に関する在中国仏國大使との会

談内容に関する褚民誼内話について

南京 1月29日後発
本省 1月29日夜着

第四二號

二十七日褚外交部長來訪シ過日上海出張ノ序ニ二十五日佛

大使ト面會セル處其ノ態度極メテ良ク支那ニ於ケル租界及
治外法權問題ニ付テハ目下「ヴィンシー」政府ト日本側ト折

衝中ナルカ恐ラク國民政府ニ對シ租界返還治外法權撤廢ヲ

表示スルコトニ依リ實際上國民政府ヲ承認スルコトトナル

ニアラスヤト推セラル斯カル事態トナラハ早速參事官ヲ南

京ニ駐在セシムル様手配スル考ヘナリト述ヘ居タリト報告

スルト共ニ本使ト佛大使ト會談セル内容ニ付訊ネタルニ付

本件ニ付テハ日本側ハ目下全般ノ問題ヲ考慮シツツ折角佛

國側ト話ヲ進メツツアリ近ク満足スヘキ結果ヲ得ルモノト
期待シ居ル次第ナルカ自分ヨリ適當ノ時期ニ支那側ニ聯絡
スヘキヲ以テ夫レ迄ハ支那側ニテモ此ノ儘見送ルコト可然
シト告ケ置キタリ

大東亞大臣へ轉報アリタン
シト告ケ置キタリ

623 昭和18年1月30日 大本營政府連絡會議決定

付記 昭和十八年一月三十日、大本營政府連絡會議

「對佛措置ニ關スル件」

用資料

右決定に関する説明

●
對佛措置ニ關スル件

一、帝國ハ佛國ヲシテ我カ對支施策ニ協應セシム

二、右ニ伴ヒ帝國ハ佛國ヲシテ佛印ノ共同防衛ニ關スル日本

國、「フランス」國間議定書ノ適用範圍ハ廣州灣ニ及フ

コトヲ確認セシメ所要ノ軍隊ヲ廣州灣ニ進駐ス

但シ交渉延引スルカ情況已ムヲ得サル場合ニ於テハ交渉

ノ妥結ヲ待ツコトナク進駐ヲ行フモノトス

三、前二項ニ關スル對佛交渉ハ同時ニ開始スルモノトス

(付記)

説明 昭和一八、一、三〇

佛國ハ支那ニ於テ依然トンテ重慶政權ト外交使臣ヲ交換シ
アルニ拘ラス國民政府治下ニ其ノ在支大使ヲ位置セシメア

ルノ寄異ナル外交關係ニ在リタリ

先般帝國カ十二月二十一日 御允裁ヲ仰キタル對支處理根
本方針ニ基キ在支相界等ノ國民政府ヘノ返還、治外法權ノ
撤廢ヲ宣言シ伊國引續キ之ニ做ヒ敵國米英ニ於テモ遲レ乍
ラ其ノ在支權益ヲ重慶ニ返還スヘキヲ聲明セリ、偶々佛國
ハ日本側ノ意嚮次第ニテハ在「ビシー」重慶側外交機關ノ
退去ニ關スル獨側申出並ニ在支佛租界等ノ返還、治外法權
ノ撤廢ヲ何時ニテモ行フ用意アル旨ヲ宣明シ來レリ

固ヨリ帝國トシテハ佛國ヲシテ帝國ノ對支施策ニ同調セシ
ムル方針ニテ進ミ來レル以上何時迄モ之ヲ遷延スル能ハス
却ツテ佛國ノ申出ヲ機會トシテ之ヲシテ帝國ノ對支施策ニ
協應セシメ對支處理ノ徹底ヲ圖ルヲ必要トスルニ至レリ
然ルニ一方佛印ニ在リテハ帝國ト共同防衛ノ基礎確立シ統

帥部ニ於テ夫夫措置シアルモ廣州灣ニ在リテハ之カ準備未
タ無キ次第ニ付今急速ニ佛國ノ在支租界等ノ返還、治外法
權ノ撤廢ニ關スル宣言ヲ行フコトアラハ佛、重慶間ノ國交
斷絶ヲ招來シ其ノ結果重慶軍若クハ米英空軍等カ直チニ廣
州灣ニ進駐シテ南支那海方面ノ我カ方交通ヲ脅威スルニ至
ルノ虞アリ

斯カル情勢ニ鑑ミ帝國ハ速カニ雷州半島ノ要域ヲ攻略シ且
ツ廣州灣ニ進駐シテ佛側ト共同シテ之ヲ防衛スルヲ必要ト
スル事態トナレリ重慶側カ廣州灣方面ニ兵力增加ノ徵アル
ニ於テ特ニ然リ

佛印ノ共同防衛ニ關スル日佛議定書ハ我カ方トシテハ廣州
灣ニモ適用シ得ルモノト解シアルモ佛側カ我カ方ト同一ノ
見解ヲ有スルヤ否ヤハ未タ不明ナルニ付廣州灣進駐ハ對佛
交渉ノ上佛國ノ完全ナル同意ヲ得タル後之ヲ行フコト必要
ナリ然レトモ萬一佛國カ交渉ノ延引ヲ計ラントスルカ如キ
場合或ハ重慶側カ事前ニ廣州灣ニ進駐スルカ如キ場合或ハ
又在廣州灣佛國軍隊カ重慶側ニ通謀セントスルカ如キ場合
等情況已ムヲ得サル場合ハ交渉ノ妥結ヲ待ツコトナク機ヲ
失セス進駐ヲ行フ場合アルヲ豫期シアリ

此ノ際對佛交渉ハ作戰企圖ノ祕匿ヲ考慮シ作戰計畫ニ即應スル時期ニ開始スルヲ適當ト思惟シ、交渉開始ノ日時ハ統帥部ヨリノ通告ニ基キ決定スル考ナリ

尙佛印當局ニ對シテモ右佛本國ニ對スル交渉ト併行シ在佛印大使ヨリ所要ノ申入ヲ行ヒ無用ノ摩擦ヲ避クル如ク致シ度所存ナリ

624 昭和18年2月4日

谷外務大臣より
在仏國三谷大使宛(電報)

仏租界問題に關する対仏申入れ中止方訓令

本省 2月4日前11時11分發

第四二號(館長符號扱、緊急)
往電第二五號ニ關シ

本件對佛申入ハ對獨申入ノ遲延等ニ依リ未タ實行セラレ居ラサル模様ナルカ本件申入ハ最早ヤ之ヲ申入レサルヲ適當トル情勢トナリタルニ付本件ハ差控ヘラレ度シ佛側ヨリ回答催促アリタル際ハ政府ヨリノ回訓未到ノ旨ヲ以テ應酬シ置カレ度シ

獨及南京へ轉電セリ

625

昭和18年2月8日 在仏國三谷大使より

谷外務大臣宛(電報)

租界及び治外法權放棄宣言実行につき仏國より申入れについて

ヴィン一 2月8日後發

本省 2月9日前着

第五四號(大至急)

往電第二八號ニ關シ

八日新「アジア」局長「クノーベル」本使ヲ來訪シ(一)在當地支那公使ヨリ佛政府ニ對シ自發的立退ヲ申出タルコト及(二)貴電第五〇號支那側參戰記念日ニ先シ可成十三日ニ佛側ニ於テ租界及治外法權返還ノ宣言ヲ致度キ希望アル旨ヲ告クルト共ニ右何レニ付テモ日本側ノ御意嚮通り措置致度キ趣ヲ述ヘタルニ付本使ヨリ(一)就テハ直ニ東京ニ電報スク(二)就テハ當方ヨリノ申出アル迄ハ何等措置セサルヘキコト及佛側希望ハ早速東京ニ傳フヘキ旨回答シ置キタリ就テハ何分ノ儀至急御回電相成度

獨ニ轉電セリ

支へ轉電アリタシ

仏租界問題等に關し北部仏印軍事情勢もふま
え意見具申

ハノイ 2月8日後発
本省 2月9日後着

第三二號(緊急、館長符號拔)
貴電第三二號ニ關シ

佛宛貴電第四三號ハ當方ニ轉電無キ爲內容ヲ承知セサル處

或ハ貴大臣發佛宛第二五號ニ關聯スルモノナルヤニモ思考

セラレ在佛大使ニ於テ右貴電第二五號ノ訓令執行前ナルニ

於テハ或ハ御参考トナルカトモ存シ左ニ與見申進ス

過日在當地陸軍司令官ハ本官ニ對シ重慶軍カ北部佛印ニ來

襲スル危險ハ先ツ無キ旨ノ意見ヲ電報(中央カ總軍カ何レ

ニ爲シタルヤ聞質ササリシモ)シタル趣ヲ語リ重慶軍カ今

ニ至リテ來襲スル位ナラ既ニ其ノコトアリタル筈ニシテ軍

事的ニ重要ニ非サル北部佛印ニ今更來襲スヘシトモ思ハレ

スト内話シ居リタルカ果シテ重慶軍カ當方面ニ來襲スルヤ

否ヤノ見當ハ何人モ容易ニ付ケ兼ヌル所ナルト共ニ又其ノ

際我方ニ何レ程ノ用意アルヤ本官ハ之ヲ言明シ得ル地位ニ
非サルモ若シ此ノ際思ヒ切リテ佛國ヲシテ重慶側ト手ヲ切
ラシムルコトヲ得レハ佛印ニ關スル限り政治的ニモ軍事的
ニモ全然我方ト同調スルコトナリテ日佛印ノ諸關係ノ明
朗トナルコトハ申ス迄モ無シ尤モ現在ノ佛國ハ獨逸ニ占領
セラレ居ル爲恰モ丁抹ト異ナルコト無ク從テ國際的ニ見テ
「ヴィシー」政府ノ國民政府承認ノ如キハ宣傳以上ノ價值
アラサルヘキ處遣方ニ依リテハ必スシモ國民政府承認問題
ヲ惹キ起ササル様ニモ處理シ得ヘントモ思考セラル
尙佛印ノ靜謐保持上萬全ノ策ニ出ツル爲「ヴィシー」ヲシ
テ在支佛國權益ノ放棄ヲ暫ク見合サシムルトスルモ之カ回
收ノ一日モ速ナルヲ望マシキハ申ス迄モナク從テ我方ニテ
斡旋セラレ合法的ニ國民政府ヲシテ之ヲ回收セシメラルル
コト例へハ佛國船ヲ徵用シタルカ如ク爲サルルノ得策ナル
ヲ思ハシムル次第ニテ從テ佛宛第二五號御訓令殊ニ其ノ末
段ハ多少御再考ノ餘地アルヤニ思考セラル又「ラバール」
トノ會談竝ニ貴大臣ノ訓令ニ依レハ在支佛國權益等トアリ
テ主トシテ租界及法權問題ヲ指シ廣州灣租借地ニハ觸レ居
ラサル様見受ケラル處出來得レハ之モ含メテ一舉ニ回收

スル方將來ノ爲得策カト存セラル

以上ハ絕對極祕ナルモ特ニ本電前半ノ如キハ部外ニ洩レサ
ル様御注意アリタシ

大東亞大臣ニ轉報アリタシ

御見込ニ依リ南大ヘ轉電アリタン

627 昭和18年2月10日

谷外務大臣より
在仏國三谷大使宛(電報)

本省 2月10日後10時30分発

第五四號(館長符號、緊急)

一、在支佛租界等ノ返還、治外法權撤廢、重慶側外交機關ノ
退去等ニ付キ我方特殊ノ事情ヨリ其實行ヲ延期シ來レル
次第ハ御承知ノ通リナルカ今回右我方特殊ノ事情モ解消
スルコトトナレルヲ以テ大本營政府連絡會議ニ於テ佛國
側ヲシテ速ニ右ノ諸案件ヲ實行セシムルコトニ決定セラ
レタリ

(一)ニ關シテハ支那公使申出通り立退カシメテ可然キ旨回答
セラレ度ク又(二)ニ關シテハ貴大使ノ應酬ニテ充分ニテ追テ
我方ノ申出ヲ待ツテ措置セシメ度シ(此ノ點ニ關シ今明日
中ニ電報スヘシ右貴官限リノ御含迄)
支ヘ轉電セリ
獨ニ轉電アリ度シ

628 昭和18年2月10日

谷外務大臣より
在仏國三谷大使宛(電報)

廣州灣進駐に関する對仏交渉要領につき訓令

別電 昭和十八年二月十日發谷外務大臣より在仏國

三谷大使宛第五五号

廣州灣進駐に関する對仏申入れ

租界及び治外法權放棄宣言実行に關する仏側
申出への回答振りについて

本省 2月10日発

第五三號(大至急)
貴電第五四號ニ關シ

二、右實行ノ結果ハ豫テ「ラヴァル」ノ申シ居ル如ク重慶ト
佛國トノ國交斷絶ヲ來シ重慶側ヨリ佛印又ハ廣州灣ニ對
シ何等積極的行動ニ出ツルコトナシトセス殊ニ廣州灣ニ
關シテハ往電第三八號ノ如キ情報モアリ、重慶側軍隊惹
イテ米英空軍ノ同地域ニ進駐ノ公算極メテ大ナル處同地

ニハ我軍未タ進駐シ居ラス且佛國側守備軍ノ兵力亦極メテ貧弱ニシテ萬一重慶側ノ占據スル所トナラハ佛印ノ共同防衛ニ關スル日佛間議定書ノ建前ヨリモ帝國ノ威信ヲ害シ且敵側ノ對日反攻宣傳ノ材料トモナルノミナラス南支那海方面ノ我海上交通ニ對スル危險ヲ増大スルコトモナリ我方ノ斷シテ容認シ得サル所ナリ依テ廣州灣ハ實力ヲ以テ防衛スル要アルニ付佛國側ニ對シ租界返還等ノ實行方申入ルルト共ニ同地ニ我軍ヲ進駐セシムルコトニ前記連絡會議ニ於テ併セテ決定セラレタリ

三、依テ近ク本大臣ヨリ右ニ關スル交渉開始ニ關シ訓令スヘキニ付キ右ヲ俟ツテ貴大使ハ別電第五五號ノ通リ文書ヲ以テ「ラヴァル」ニ申入レラレ速ニ其ノ同意ヲ取付ケ大至急回電相成度シ（申入後不取敢緊急電ヲ以テ申入ノ時間及先方ノ態度報告アリ度シ）

四、右同意ハ不取敢口頭承諾ニテ可ナリ而シテ貴大使申入後遲クモ四十八時間内ニ「ラヴァル」ヨリ現地ニ所要ノ訓令ノ到着スルコトヲ目途トシテ同意ヲ取付ケラレ度キモ作戰ノ必要上速ケレハ速キ程可ナルハ申迄モナシ特ニ急要スルハ別電第五五號末段ハノ點ニシテ帝國トシテモ

不慮ノ衝突ハ極力之ヲ避ケ度キ意向ナルニ付右ハ是非共「ラ」ノ口頭承諾ト同時ニ時ヲ移サス實行セシメラレ度ク然ラサルニ於テハ不測ノ事態發生ノ虞ナシトセス
吾、「ラヴァル」ノ同意カ遲延スルカ又ハ右時間内ト雖モ重慶側ノ進攻明カナルカ如キ情況已ムヲ得サルモノアル場合ハ佛側ノ同意ヲ待タス進駐スルノ已ムナキニ至ルヘキニ付右事情御含ノ上「ラヴァル」ヲ說得シ回答ヲ急カシメラレ度シ

六、「ラヴァル」ヨリ廣州灣州長官ニ對シ直接所要ノ訓電ヲ發スルコト時間的ニ最モ望シキ次第ナルモ右カ出來サルニ於テハ先ツ「ラヴァル」ヨリ「ドク」佛印總督ニ對シ至急所要ノ訓電ヲ發シ「ドク」ヨリ更ニ州長官ニ訓令スルコトセシムル爲本大臣發河内宛電報第三九號ノ通り訓令シ置キタルニ付右モ「ラヴァル」ニ説明セラレ至急所要ノ手續ヲ執ラシメラレ度シ若シ右ノ如ク「ドク」經由トスル要アルニ於テハ夫レ丈時間ヲ要スルヲ以テ旁々「ラヴァル」ノ同意ハ一刻モ速カナルヲ要スル次第ナリ

七、前述ノ如ク「ラ」ノ同意ハ不取敢口頭承諾ニテ可ナルモ後日ノ爲別電第五五號貴大使ノ申入文書ニ對スル同人ノ

回答ノ形式ニテ文書ニ認メ置クコト可然ト存スルニ付成

ルヘク右様取計ハレ度シ（從テ文書ニ依ル回答ハ口頭承諾及佛印ニ對スル訓電發出後トナリ差支ナキモ日附ハ口頭承諾ノ日ト同一トセラレ度シ）

八、「ラヴァル」ハ本件同意ニ當リ佛印乃至廣州灣ノ領土保

全及主權尊重ノ約束ニ言及スルモノト察セラルルカ其ノ

際ハ餘リ本件ニ深入リセス我方ニ於テハ議定書ノ規定ヲ

尊重スルモノナル旨「アツサリ」應酬シ置カレ度シ

九、左ノ諸點ハ貴大使ニ於テ御含ノ上「ラヴァル」ニ對スル

申入レニ際シ必要ニ應シ適宜應酬セラレ度シ

(イ)一九四一年七月二十九日ノ佛印ノ共同防衛ニ關スル日

佛間議定書ハ廣州灣ニモ當然適用アリトノ建前ハ議定

書締結當初ヨリ我方ノ堅持スル所ナリ

(ロ)別電第五五號(ロ)ノ「便宜供與」トハ概ネ左ノ通リトス

出來得レハ速ニ佛側ヨリ豫メ現地ニ通報シ置ケハ現地

ノ交渉進捗上好都合ナリ

(1)軍隊ノ行動、宿營及給養ニ對スル便宜

(2)港灣施設、倉庫其ノ他軍用諸施設ノ使用及新設

(3)軍用資材及勞力ノ蒐集及利用

(4)必要ナル通貨ノ提供

(ハ)佛國側ハ別電第五五號(ロ)ノ協議ハ日本軍指揮官ト佛印

總督トノ間ニ爲サンコトヲ希望スルコトアランモ我方

ハ是非共現地ニ於テ爲サシメ度キ意向ナリ（佛國側都

合ニ依リ現地交渉ハ州長官ノミニテハ不充分ナラハ廣

州灣佛軍指揮官ヲ之ニ加フルカ又ハ佛印總督ノ代表者

ヲ現地ニ派遣スル方法モアルヘシ）

(ニ)南部佛印進駐ノ際ハ議定書ノニ基キ「特別取極」ト

シテ議定書ト同時ニ「軍事上ノ協力ニ關スル交換公文」

ヲ作成シ相當詳細ノコトヲ取極メタル次第ナルカ今回

ハ作戦上ノ必要モアリ正式ノ交換公文ノ如キモノヲ作

成セス（此點ハ貴大使限リノ御含迄）後日ノ爲貴大使ト

「ラヴァル」トノ間ノ往復文書ヲ以テ之ニ代ヘントス

ルモノナリ

（ロ）別電第五五號對佛申入レノ件ハ申ス迄モナク作戰ト極

メテ機微ナル關係アルニ付申入レ迄ハ嚴ニ機密ヲ保持セ

ラレツツ申入レノ文書ヲ至急準備シ何時ニテモ申入レ可

能ナル態勢ニテ待機セラレ度シ

二、本件關係電報ハ凡テ河内ニ轉電アリ度シ

別電ト共ニ獨ヘ轉電アリ度シ
別電ト共ニ河内ヘ轉電セリ

(別電)

本省 2月10日後10時発

第五五號(館長符號、緊急)

帝國政府ハ佛國政府カ我方對支施策ニ順應シ其在支租界等ノ返還治外法權ノ撤廢ヲ實行スル用意アル旨ヲ承知シ欣快トスル所ナリ而シテ之等ノ實行ノ時期方法ニ關シテハ先般來帝國政府ニ於テ慎重考慮中ナリシカ此ノ際佛國政府ニ於テ豫テ「ラヴァル」首相ノ申出通り速カニ其ノ在支專管租界ノ返還、上海及廈門ノ兩共同租界並ニ北京公使館區域ノ支那側回収ニ對スル承認、治外法權ノ撤廢ヲ實行セラレンコトヲ希望スルモノナリ

二 対仏印關係

備極メテ薄弱ナル廣州灣ニ對シテハ帝國ニ於テ多大ノ懸念ナキヲ得ス

佛印ノ共同防衛ニ關スルモ帝國ノ斷シテ容認シ得サル所ナリ就テハ帝國トシテハ時機ヲ失セス帝國軍隊ヲ廣州灣ニ進駐セシメ以テ前記日佛間議定書ニ基ク共同防衛ノ責任ヲ全ウ致度キニ付佛國政府ニ於テ速ニ左ノ點ヲ承認且實行セラレントコトヲ要請ス

(イ)佛國政府ハ日本國軍隊、艦艇及航空部隊ノ廣州灣ヘノ進駐ヲ承認スルコト

(ロ)佛國政府ハ日本軍隊ニ右進駐ニ伴フ諸般ノ便宜供與ヲ爲スコト

右便宜供與ノ細目及日本國軍ノ行動ニ關スル細目ハ進駐日本陸海軍最高指揮官ト廣州灣州長官トノ間ニ協議決定セシムルコトトシ佛國政府ハ右協議決定ノ爲所要ノ權能ヲ至急州長官ニ賦與スルコト

(ハ)帝國軍隊ノ進駐ニ伴ヒ佛國軍隊トノ間ニ不慮ノ衝突ノ發生ヲ回避スル爲佛國政府ハ最モ速ニ所要ノ措置ヲ執ルコト

ト而シテ不取敢必要ナル訓令ヲ廣州灣現地當局ニ發スルコト

右ハ作戦上ノ必要ヨリ日時ノ遷延ヲ許ササルニ付佛國政府ニ於テ遲滯ナク本件ヲ承認シ且實行セラレントコトヲ希望ス

629 昭和18年2月10日 在仏印栗山事務總長宛(電報)

廣州湾進駐に際し対仏申入れの次第をドク一
にも伝達用意方訓令

本省 2月10日後11時30分発

第三九號(館長符號、緊急)

本大臣發在佛大使宛電報第五四號及第五五號ニ關シ

「ラヴァル」ヨリ廣州灣州長官ニ對シ直接所要ノ訓令ヲ發スルコト出來サル場合ハ「ドクー」ヲ經由スルコトナル
ヘキ處事ノ性質上急速處理ノ要アルニ付貴官ハ追テ本大臣

第三六號(館長符號、大至急)

ハノイ 2月12日後発
本省 2月12日夜着

貴電第三九號ニ關シ

廣州灣州長官ハ佛印總督ノ管轄下ニ在ル次第ナルヲ以テ
ノ訓令ヲ待チ直ニ「ドクー」總督ニ對シ在佛大使ヨリ「ラ
ヴァル」ヘノ申入ノ次第ヲ通報シ『ラヴァル』ヨリ總督
ニ對シ所要ノ措置ヲ執ルヘキ旨ノ訓令接到ノ際ハ直チニ廣
州灣州長官ニ對シ必要ナル手配ヲ爲サレ度ク時機ヲ失スル
「ヴィシー」ニ於テ申入レト同時ニ本官ニ於テモ其ノ旨佛

630 昭和18年2月12日 在仏印栗山事務總長宛(電報)

廣州湾進駐に際し対仏申入れと同時にドク一
にも通告方意見具申

ハノイ 2月12日後発
本省 2月12日夜着

ニ於テハ不測ノ不幸ナル結果ヲ惹起スル虞ナキニアラサル
ヘキ旨」ヲ申入レ置カレ急速措置方總督ヲ指導セラレ度
貴地ヨリ廣州灣ヘ佛國將校等派遣ノ必要モ生スヘキ處貴地
軍側ト打合セラレ萬遺憾ナキヲ期セラレ度シ
佛ヘ轉電セリ

629 昭和18年2月10日 在仏印栗山事務總長宛(電報)

廣州湾進駐に際し対仏申入れの次第をドク一
にも伝達用意方訓令

本省 2月10日後11時30分発

第三九號(館長符號、緊急)

本大臣發在佛大使宛電報第五四號及第五五號ニ關シ

「ラヴァル」ヨリ廣州灣州長官ニ對シ直接所要ノ訓令ヲ發スルコト出來サル場合ハ「ドクー」ヲ經由スルコトナル
ヘキ處事ノ性質上急速處理ノ要アルニ付貴官ハ追テ本大臣

第三六號(館長符號、大至急)

貴電第三九號ニ關シ

廣州灣州長官ハ佛印總督ノ管轄下ニ在ル次第ナルヲ以テ

ノ訓令ヲ待チ直ニ「ドクー」總督ニ對シ在佛大使ヨリ「ラ
ヴァル」ヘノ申入ノ次第ヲ通報シ『ラヴァル』ヨリ總督
ニ對シ所要ノ措置ヲ執ルヘキ旨ノ訓令接到ノ際ハ直チニ廣
州灣州長官ニ對シ必要ナル手配ヲ爲サレ度ク時機ヲ失スル
「ヴィシー」ニ於テ申入レト同時ニ本官ニ於テモ其ノ旨佛

二 対仏印関係

印總督ニ告クルト同時ニ何レノ場合ニ於テモ總督ニ於テ州長官ヲシテ我方ニ充分協力セシムル様適宜措置方申入ルルコト可然ト存ス

佛へ轉電セリ

631 昭和18年2月13日

(谷外務大臣より
在仏印栗山事務總長宛(電報))

廣州湾進駐に際しての仏印側措置につき指示
について

本省 2月13日後8時発

第四七號(館長符號、緊急)
貴電第三六號ニ關シ

御來示ノ通り取計ラハレ度シ殊ニ「ラヴァル」カ我方申入

ヲ承認セサルカ又ハ回答ヲ遷延スル爲「ラ」ノ佛印總督ニ

對スル訓令接到セサル場合ハ「ドク」ヲシテ獨斷ニテ廣

州灣州長官ニ所要ノ訓令ヲ發出セシムル様御措置アリ度シ

尙「ヴィシー」河内間ノ電信聯絡ハ相當遲延ノ懸念モアリ

總督カ萬一往電第三九號貴官ノ申入ニ依リ對日積極的協力

ノ見地ヨリ進テ本國ヨリノ訓令接到前ト雖モ現地ニ於ケル

不測ノ事態防止ノ爲適宜ノ訓令ノ發出又ハ聯絡者ノ派遣等所要ノ措置ヲ講スルトセハ右ハ素ヨリ好マシキ儀ナリ
大東亞大臣ニ轉報セリ

佛ニ轉電セリ

632 昭和18年2月15日

(在仏印栗山事務總長より
谷外務大臣宛(電報))

廣州湾進駐を申入れる際のドクーへの伝達方
法について

ハノイ 2月15日後発
本省 2月15日夜着

第四〇號(館長符號、緊急)
貴電第四七號ニ關シ

在佛大使發貴大臣宛電報第六四號ノ次第モアル處本件ハ作戰トノ關係上且不測ノ事態發生防止ノ爲或ハ「ヴィシー」ニ於ケル申入ニ先ンシ當地ニ於テ佛印總督ニ對シ申入ヲ爲シ總督ヲシテ急速機宜ノ措置ヲ採ラシムル必要アルヘシト存セラルニ付テハスル場合御訓令ノ接到ヲ俟チ本官ハ總督ニ對シ佛宛貴電第五四號及第五五號ノ御趣旨ヲ説明シタ

ル上文書ヲ以テ左記ノ申入ヲ爲スコト致度シ

尙總督ノ回答ハ一應口頭ヲ以テ取付ケタル上文書ニ依リ確認スルコトスヘシ

「本國政府ノ訓令ニ基キ左記ヲ通告スルノ光榮ヲ有ス佛國政府ノ南京政府ノ爲ニスル在支佛國權益ノ放棄ニ伴ヒ帝國

政府ハ廣州灣防衛ヲ強化スル必要ヲ認メ印度支那共同防衛

ニ關スル議定書ノ條項ニ基キ今回廣州灣ニ帝國軍隊ヲ進駐

セシムルコトニ決定セリ依テ佛印總督ニ於テ左記ノ諸點ニ同意ヲ與ヘラレンコトヲ要請ス」ヲ「佛印總督」ニ改メ列

記ス

佛ヘ轉電セリ

633

昭和18年2月16日

谷外務大臣より
在仏國三谷大使、在仏印栗山事務總長
宛(電報)

広州湾進駐に關する對仏申入れ実行方訓令

本省 2月16日前8時30分發

合第一〇五號(館長符號、緊急)

本大臣發佛宛電報第六二號及河内宛電報第三九號ニ關シ
本電接到次第速ニ佛國政府及佛印總督ニ申入レラレ度シ

634

昭和18年2月16日 在仏國三谷大使より

谷外務大臣宛(電報)

広州湾進駐に伴う對仏申入れについて

ヴィシー 2月16日後発

本省 2月18日前着

第七六號(緊急、館長符號)
貴電合第一〇五號ニ關シ

二月十六日午後四時「ラバル」ニ面會貴電第五五號佛譯ノ書面ヲ交付スルト共ニ貴電第五四號ノ御趣旨ニ從ヒ說明ヲ加ヘタル處「ラ」ハ本件カ單ニ軍事的行動ニシテ廣州灣ノ地位ニ何等變更無キモノト思考スル旨述ヘタルニ付其ノ意ハ一九四一年七月二十九日ノ議定書ニ依ルモノニシテ閣下

尙「ヴィシー」ニ於テハ「ラヴアル」未タ歸還シ居ラサレハ不取敢次官其他適當ノ向ニ申入レ至急「ラ」ヲ歸還セシムルカ或ハ電話連絡等適宜ノ手段ヲ講セシメ兎ニ角速カニ所要ノ措置ヲ執ラシメラレ度シ河内ニ於テハ本電河村陸軍少將及大熊海軍大佐ニ傳ヘラレ度シ

本電宛先 在佛大使、河内大使府

ノ諒解セラルル通リナリト答ヘタルカ「ラ」ハ自分トシテ

ハ異議無キモ一、二時間ノ餘猶ヲ得タキ旨述ヘタル後陪席

ノ「ロシア」ニ植民長官「ブレビエ」ト協議方ヲ命シタリ

依テ本使ハ「ロシア」ト往電第七一號ノ點ヲ打合セタル後

五時半再ヒ「ロシア」ヲ訪問セル處全部的承諾ノ旨確答ア

リ尙往電第七一號ハ往電第七四號ノ通り「ラ」ノ希望モア

リ訂正シ尙植民長官ヨリ「ドクー」ニ對シ暗號電ヲ以テ本

件承認ノ件ヲ確認セルト共ニ現地ニ於テ協議スル爲必要ナ

ル一切ノ措置ヲ執ル様訓令スヘキ旨述ヘタリ

河内、獨ニ轉電セリ

編注 本件申入れに対する一月十六日付仏側答翰は昭和十八

年二月二十八日在仏国三谷大使より谷外務大臣宛電報

第一一〇号にて本省へ伝えられた。

~~~~~

635 昭和18年2月17日 在仏印栗山事務総長より  
谷外務大臣宛(電報)

広州湾進駐につきドクーへ申入れについて

ハノイ 2月17日前發

本省 2月17日夜着

第四二號(緊急、館長符號)

貴電合第一〇二號ニ關シ

十六日午後五時半(佛印時間)本官河村陸軍少將大熊海軍大

佐ヲ同道「ドクー」總督ヲ往訪シ

東京ハ今般在佛大使ヨリ「ラバール」首席ニ對シ佛宛貴電

第五五號申入ヲナスヘキ旨ノ訓令ヲ同大使ニ對シ與ヘタリ

トテ右貴電第五五號ノ趣旨ヲ告ケ同時ニ本官ニ於テモ貴總

督ニ對シ右日本政府ノ要望ヲ容レラルル様申入方ノ訓令ニ

接シタリトテ往電第四〇號(中段以下)ノ次第ヲ認メタル公

文ヲ手交シタル上廣州灣ハ貴總督ノ管下ニ屬スルコトニモ

アリ貴總督ノ責任ニ於テ之ニ應諾方ヲ求メタリ

右ニ對シ總督ハ早速州長官ニ本官申入ノ次第ヲ電報スルト

同時ニ同長官ニ對シ不慮ノ事態發生ヲ防止スル爲必要ナル

措置ヲ執ルヘキ旨ノ訓令ヲ發スヘシ就テハ州長官ヨリ總督

ノ電報ヲ受領セル旨ノ回電ニ接スル迄進駐ヲ待タレンコト

ヲ望ム又便宜供與等ニ關スル現地協定締結ニ關シ權限ヲ附

與スルコトニ主義上異存無キモ部内トノ協議ノ都合モアリ

文書ニ依ル回答ハ暫ク待タレシト答ヘタリ

依テ本官ハ右ノ次第ヲ本國政府ニ電報スヘキ旨並ニ書面ニ  
依ル回答ハ今晚中ニ送付アリタキ旨ヲ告ケ總督之ヲ應諾セ  
リ

後刻回答ニ接シ次第電報スヘキモ不取敢

大東亞大臣ヘ轉報アリタシ

佛へ轉電セリ

~~~~~

636 昭和18年2月17日

在仏印栗山事務總長より
谷外務大臣宛(電報)

ドクーより広州灣州長官への日本軍進駐に關

する訓令發令について

ハノイ 2月17日前發

本省 2月17日夜着

第四四號(館長符號、緊急)

往電第四二號ニ關シ

十六日午後十時外交部長本官ヲ來訪シ冒頭往電本官辭去後

直ニ廣州灣州長官向總督ヨリ日本軍ノ進駐ニ際シ不慮ノ事

態發生セサル様機宜ノ措置ヲ採ルヘキ旨ノ訓令發セラレタ

ルカ更ニ日本軍ニ便宜供與方殊ニ細目協定調印ノ權限ヲ現

地官憲ニ附與スル點ニ付テハ佛印陸軍司令官ノ同意ヲ得ル
必要アル爲遲延シタルモ既ニ發電セラレタル筈ナリト述へ
本官ノ面前ニテ總督府ニ電話セル處右ハ午後十一時發電セ

ラレタルコト判明セリ依テ外交部長ハ右ニテ我方ノ要求ヲ

全面的ニ容レタルコト故書面ニ依ル回答ハ十六日附ヲ以テ

十七日午前差出スヘシト申述ヘタルニ付之ヲ諒承シ置ケリ

尙其ノ際回答文ノ内容ニ付協議セルニ付委細ハ書面接到ヲ

俟チ追電スヘシ

佛へ轉電セリ

~~~~~

637 昭和18年2月17日

谷外務大臣より  
在中國重光大使宛(電報)

租界等放棄声明文は南京国民政府に對しての  
み發出するよう仏國側に注意喚起方訓令

本省 2月17日後5時発

第五八號(館長符號、緊急)

當方ノ有スル確實ナル情報(暗號解讀)ニ依レハ佛國側ハ其ノ在支租界ノ返還治外法權ノ撤廢ヲ聲明スルニ當リ聲明文

ヲ重慶外交部ニ提出スル手配ヲ定メ居ル處佛國側ノ斯ル二重政策ハ我方ノ容認シ得サル所ニシテ其ノ予テ懸念シ居ル上海佛租界ノ靜謐保持トモ關聯シ佛側ハ極メテ困難ナル立

場トナルヘキヲ以テ貴大使ハ至急佛側ノ注意ヲ喚起セラレ飽迄國民政府ノミヲ相手トシテ措置スル様御指導相成度尙本件情報ノ出所ヲ感得セシメサル様特ニ御注意相成度御如才ナキコトナカラ爲念申添フ

佛、河内、上海、北京へ轉電セリ

~~~~~

638 昭和18年2月18日

在中国重光大使より
青木大東亞大臣宛(電報)

仏租界返還につき在中国仏國大使へ伝達について

別電

昭和十八年二月十八日發在中国重光大使より
青木大東亞大臣宛K第七六号

右伝達要領

南京 2月18日前發
本省 2月18日後着

K第七五號(緊急、館長符號扳)

外務大臣發第五八號及貴大臣發第二一六號ニ關シ

二月十八日當地佛國領事ヲ招キ「コスマ」大使ニ傳達セリ要領別電ノ通

(別電)

南京 2月18日後發
本省 2月18日後着

K第七六號(緊急、館長符號扳)

二月十八日當地副領事ヲ招キ「コスマ」大使ニ左ノ通傳言セリ

一、租界治外法權問題ニ關シ過日貴下ノ傳ヘラレタル日本政
府ノ故障ハ(外務大臣宛第四六號)排除セラレタリ尙此ノ
事情ハ支那政府ニモ申入ル積ナリ(先方ハ然ラハ佛國
大使ニ於テ支那側ニ佛國政府ノ意嚮ヲ傳達シテ可ナリヤ
ト質問セルニ付差支ナキ旨答ヘ尙先方ハ本件ハ東京又ハ
「ヴィシー」ニテ正式ニ申入レラルル次第ナリヤト問ヒ

タルニ付右ノ點ハ承知セサルモ本使ノ「コスマ」大使ニ
對スル本申入ヲ以テ正式ノモノト見做サレ差支ナシト答
ヘ置ケリ)

二、「コスマ」大使ハ租界及治外法權問題ニ付テ「ヴィシー」

ニ於テ一般的聲明ヲ出シ次イテ南京政府ハ實際的交渉ニ

入ル意圖ト承知シ居タルカ若シ南京政府ノ實權下ニアル

地區ニ關係スルコトニ付テ重慶ニ公式又ハ非公式ノ接觸

ヲナサルルコトアラハ右ハ重慶政府ト敵對關係ニアル南

京政府ノ惡感ヲ刺戟シ和平地區ニ重大利害關係ヲ有スル

佛國ニトリ不利益ナルノミナラス事態ヲ複雜化スヘキニ

付右ノ如キコト無キ様強ク希望スル旨ヲ述ヘ置キタルカ

佛領事ハ右ハ重慶側ニモ關係アル法權問題モ含マルル次

第ナリヤト問ヒタルニ付法權問題モ實際上主トシテ和平

地區ヲ主トスヘク且租界問題カ先ツ處理セラルヘキカ兩

者共重慶側ニハ申出テサルヲ可トスヘシト答ヘ尙佛領事

カ重慶側ヨリ説明ヲ求メ來レル場合ニハ如何トノコトナ

リシニ付右ノ場合ハ素ヨリ可然説明ヲ與フルノ外ナカル

ヘシト答ヘ置ケリ

本電ト共ニ上大、北大、河内へ轉電セリ

「ヴィシー」へ轉電アリ度シ

639 昭和18年2月18日

在仏国三谷大臣宛(電報)

租界返還声明につき仏国外務次官内報について

ヴィシー 2月18日後発

本 省 2月20日前着

第七八號(大至急、館長符號)

貴電合第一〇七號ニ關シ

十八日本野ヲシテ「ロシア」次官ニ質サシメタル處佛側ハ

當地ニ於テ二十三日「佛政府ハ「支那」トノ友好關係ヲ緊

密ナラシムル爲「支那」ニ對シ法律上ノ特權竝ニ北京公使

館區域、上海及鼓浪嶼ノ共同租界及漢口、天津、上海、廣

東ノ租界ヲ返還スルコトニ決定セリ右實施ニ付テハ追テ適

宜ノ措置ヲ執ルヘキ旨」ノ宣言ヲ爲シ右ニ關スル實際的措

置ハ地方的ニ解決スル所存ナル趣述フルト共ニ右文案寫ヲ

當方ニ手交方約セリ

尙右宣言ヲ當地ニ於テ行フハ「コスマ」大使カ重慶側ニ

「アクレジット」セラレ居ル關係上同大使ヲシテ措置セシ

ムルトキハ重慶側ニ對スル宣言ナルカ如ク解セラルル惧ア
ルヲ以テ此ノ種ノ誤解ヲ避ケルニ出スル旨ヲ説明シ又本野
ヨリノ質問ニ對シ重慶側ニ對シテハ何等ノ措置ヲ執ラサル
ヘキ旨答ヘタル趣ナリ

尙本件宣言ヲ「コスム」カ自己ノ裁量ニテ重慶側ニ通告ス
ルカ如キコトナキ様御措置相成ルコト然ルヘシト存セラル
獨、河内へ轉電セリ

上海、北京へ轉電アリタシ

640 昭和18年2月20日 谷外務大臣より
在仏國三谷大使宛(電報)

南京国民政府を正式承認するようラヴァルへ

申入れ方訓令

本省 2月20日後6時20分発

第七〇號(緊急、館長符號板)

佛國政府ハ重慶トノ關係ヲ斷絶シ居ラサル爲同地ニ外交代
表ヲ有スルノミナラス昆明ニモ領事ヲ置キ居ル一方「コス
ム」大使初メ外交官領事官ヲ北京上海等ニ駐在セシメ居リ
之等ハ事實上國民政府ト或程度ノ接觸ヲ保チツツアリ而シ

テ「コスム」ノ如キハ佛印又ハ廣州灣經由ニテ在重慶代表
等トノ間ニ種々情報ノ交換ヲ爲シ或ハ指令ヲ發シ居リ現ニ
租界返還法權撤廢ノ聲明ニ際シ聲明文ヲ重慶政府ニ提出ス
ルカ如キ手配ヲ定メ居ル情報アリ、斯ル佛國ノ二重政策ハ
東亞ノ事態ニ合致セサルノミナラス我方ニ取り甚タ危險ナ
リ

今回佛國ノ租界返還法權撤廢ノ實施ニ際シ當然同國ノ國民
政府承認問題ヲ生スヘク佛國トシテハ成ルヘク正式承認ヲ
避ケルモノト察セラル處前述ノ如キ在支佛官憲ノ態度ニ
モ鑑ミ且將來國民政府ノ對佛國關係諸問題ノ處理ヲ明確ナ
ラシムル點ヨリモ帝國トシテハ此際佛國カスル二重政策ヲ
放棄シ重慶政權ヲ否認シ國民政府ヲ正式ニ承認センコトヲ
希望シ居リ特ニ重慶、昆明等非占據地域ニ於ケル佛官憲ノ
引揚ハ是非共實行セシメ度キ意向ニ付貴大使ハ右我方意向
ヲ「ラヴァル」ニ申入レラレ之ガ實行方御指導相成度
陸海軍大東亞省ト協議濟
大東亞大臣ヘ轉報セリ
南京、上海、北京、河内ニ轉電セリ
獨伊ニ轉電アリ度シ

昭和18年2月21日

在仏國三谷大使より
谷外務大臣宛(電報)

南京国民政府の正式承認申入れに対するラヴ
アルの回答振りについて

ヴィン一 2月21日後発

本省 2月22日前着

第八四號(緊急、館長符號扱)

ハ其ノ代表者ヲ「ヴィン一」ヨリ立退方申出テ居ルコトニモアリ在重慶佛代表者ヲ引揚シムルコトモ自然ニアラスヤト突込ミ置キタリ結局「ラ」ハ本件ハ充分好意的ニ考慮スヘク唯研究ヲ要スル點モアリ又必要ナル準備措置モ考慮致度キニ付暫時ノ猶豫ヲ得度シト述ヘタリ

貴電第七〇號ニ關シ二十一日午前「ラバル」ニ面會(「ロシア」同席)御來示ノ趣旨ニ從ヒ我方希望ノ趣旨ヲ篤ト說明シタル處「ラ」モ之ヲ諒解セル模様ナルカ元來佛ノ從來ノ

政策ハ日本勢力範圍内及重慶勢力範圍内双方ニ於ケル權益件ハ理論上ハ佛ノ地位ハ何トモ辯護ノ餘地無キモ實際上種々ノ問題アリ「ラバル」ニモ充分事態ヲ説明シ置クヘク何レニスルモ本件ハ政治的ノ問題ナリト述ヘタリ

獨、伊、河内へ轉電セリ

南大、上大、北大へ轉電アリタシ



642 昭和18年2月23日

在中國重光大使より
青木大東亞大臣宛(電報)

仏國による租界返還声明と南京国民政府承認

問題に関する世論指導方針につき請訓

南京 2月23日前發

本省 2月23日後着

勢力内ノ佛國權益トハ比較ニナラサルヘク又佛印ノ安全ニ就テハ今日ニ於テハ御懸念ノ必要無シト述ヘ尙現在重慶側

第三一四號(緊急、極秘)

佛國ノ租界返還及治外法權撤廢ニ關スル宣言ト佛國ノ國府承認トノ關係ニ關スル本省ノ輿論指導ノ方針支那側ト同一

歩調ニ出ツル要モアルニ付御回電ヲ請フ

當館トシテハ本宣言ヲ以テ事實上ノ佛ノ國府承認ヲ意味ス

ト解シ右見解ニ基キ新聞等ヲ指導致度キ意嚮ナリ

在支各公使、滿大ヘ轉電セリ

河内ヘ轉電アリ度シ

~~~~~

643 昭和18年2月23日

在北京塩沢公使より  
谷外務大臣宛(電報)

仏租界及び治外法權放棄宣言の通報対象に關する在中国仏国大使の説明について

北 京

2月23日後発

本 省

2月23日後着

第五號(緊急、館長符號扱)

佛發閣下宛電報第七八號末段ノ次第モアリ一十二日夕土田

參事官ヲシテ「コスマ」(二十日上海ヨリ歸燕)ニ面會セシ

メタルニ同大使ハ自ラ進ンテ「ヴィシー」宣言原文ヲ示シ

佛國トシテハ支那國民(NATION CHINOISE)ニ宛テタルモ

## 二 対仏印關係

ノナルヲ以テ重慶ニ對シテハ如何ナル形式ニ於テモ絕對ニ何ノ通報モセス唯新聞ニ發表スルノミナリト確言シ之ハ自分苦心ノ結果本國政府ニ承容レシメタル法式ナリトテ大ニ得意ニナリ居リタル趣ナリ

大東亞大臣へ轉報アリタン

在支大使、上海、河内ヘ轉電セリ

編注 仏国は一月二十三日に中国における租界返還等に関する声明を発出した。

~~~~~

644 昭和18年2月24日

在仏印栗山事務総長より
青木大東亞大臣宛(電報)

仏租界等返還声明を期に仏国の一重外交を清

算させるよう意見具申

ハノイ 2月24日後発

本 省 2月24日後着

第一五一號(至急)

在支大使發貴大臣宛電報第三三四號ニ關シ

佛國政府今回ノ聲明ニ付テハ我方ハ之ヲ以テ同政府ヲシテ

從來ノ二重外交ヲ清算セシムルコト致度ク殊ニ佛印トシテ此ノ機ニ於テ其ノ重慶トノ關係ヲ明瞭ナラシムルコト我方ノ萬般ノ施策上最モ必要ナルニ付我方ハ單純ニ（敢ヘテ法律上乃至事實上等ノ論議ヲナサス）「前記聲明ハ國民政府承認ヲ意味ス」トノ見解ニ基キ輿論ヲ指導シ南京政府ヲシテ同様方針ノ下ニ工作セシムル様致度シ

南大ニ轉電セリ

645 昭和18年2月25日

在中国重光大使より
青木大東亞大臣宛（電報）

日本軍の廣州灣進駐に対する重慶政權の反応
について

南京 2月25日後発
本省 2月25日後着

K第八五號

重慶放送（二十五日）ニ依レハ日本ノ廣州灣進駐ニ關シ宋外交部長ノ命ヲ以テ佛蘭西駐重慶外交代辦（ボンクール）（音譯）宛二十四日附照會ヲ發セルカ要旨左ノ通り

日本ハ二十一日佛蘭西政府ノ完全ナル了解ノ下ニ廣州灣ニ

進入セル旨發表セルカ廣州灣ハ中國領土ニシテ一八九九年廣州灣租借條約第一條ニ中國ハ該地ノ主權ヲ保留スル旨明白ニ聲明セルヲ以テ中國政府ノ同意ヲ得ルニ非サレハ佛蘭西ハ一方的ニ第三國ニ依ル占領又ハ使用ヲ承認シ得ス況ニヤ該地ヲ中國ノ敵國ニ交付シ得ナルハ勿論ナリ日本ノ今次占領ハ佛蘭西カ事前ニ日本ニ對シ諒解ヲ與ヘタルト否トニ拘ハラス佛蘭西當局カ日軍進入ノ際何等抵抗セス且事前事後ニ於テモ亦經過ヲ中國ニ通告セサリシハ即チ前記租借條約失效セルモノニシテ中國政府ハ佛蘭西政府ニ對シ領土主權ノ自由保持ノ爲必要ナル措置ヲ執ルヘキヲ留保スルト共ニ損害賠償要求ヲ通告スルニ付右貴國政府ニ傳達相成度在支各公使、廣東、河內等ニ轉電セリ

646 昭和18年2月26日

在北京塩沢公使より
青木大東亞大臣宛（電報）

仏國の南京國民政府正式承認問題に關し在中
國仏國大使と会談について

北京 2月26日前発
本省 2月26日後着

K第一四號(至急、館長符號扱、極祕)

重光大使ヨリ

二十五日「コスマ」佛國大使來訪會談シタルカ「コ」ハ在

佛三谷大使ヨリ「ヴィシー」政府ニ對シ南京政府ノ承認ヲ要望セリトノコトニテ自分ハ其ノ決定ヲ待チ居レリ「ヴィシ一」トシテハ今直ニ重慶ト外交關係ヲ斷絶スルノ理由ニ

困リ居レルカ如シト述ヘタルニ付本使ヨリ第一ニ形勢茲ニ到レハ南京政府ヲ承認スルノ外ナカルヘシ自分カ佛國ノ立

場ニ立ツテ見ルモ佛國ノ權益ハ殆ト全部南京政府ノ勢力範圍内ニ存スル譯ニテ佛トシテモ之ヲ適當ニ保障スルコトヲ

希望スヘキ處南京政府部内ニモ極端分子アリ其ノ感情ヲ害スルハ大ナル不利益ナレハ凡ユル困難ヲ排除シ同政府ヲ承認スルノ外ナカルヘシ今回ノ佛國治外法權撤廢及ヒ專管租界還附等ニ關スル宣言モ右ノ趣旨ニ出ツルモノト思考ス

第二ニ治外法權ノ撤廢等ヲ實現スルニハ種々南京側ト取極メヲ要シ右ハ南京政府ヲ承認セスシテハ技術的ニ不可能ナリ第三ニ自分トシテハ佛側ト協力スル精神ヲ發揮セントスルモ佛カ二ツノ椅子ニ腰掛ケル様ナ態度ニテハ其ノ實行困難ナリ以上ノ如キ次第ニテ佛トシテハ態度ヲ決スヘキ時機

二 対仏印關係

ニ到達シタルモノト認メラルニ付速ニ南京政府ヲ承認スヘキモノト思考スト述ヘタルニ「コ」ハ同感ナリ「ヴィシー」ニ於テ承認ヲ決定センコトヲ希望スト述ヘタリ

~~~~~

647 昭和18年2月27日 在北京北沢總領事より

谷外務大臣宛(電報)

### 在ヴィシー重慶側外交使節の退去等につき在 中国仏國大使内話について

北京 2月27日後発  
本省 2月27日夜着

第一七號(緊急、極祕)

重光大使ヨリ

本二十七日「コスマ」佛大使ト會見ノ際同大使ハ昨二十六日「ヴィシー」ヨリ電報ヲ受領セルカ右ニ依レハ「ヴィシー」政府ヨリ同地駐在支那代表者ニ旅券ヲ交付シ同代表ハ多分月曜日(三月一日)迄ニ退去スヘシトノコトナリ自分(佛大使)ノ意見テハ支那政府モ同様ノ態度ニ出スヘシト考ヘラレ順次日本ノ希望セラルル様ニ南京政府ノ承認ニ進ミ行クモノト思考セラル尙日本軍ノ廣州灣上陸問題ニ付重慶側ヨ

リ佛側ニ抗議ヲ提出シタルハ新聞報道ノ通リナリト内話セリ

南大、上大ニ轉電シ北大ニ轉報セリ

大東亞省ニ御轉報アリタシ

648

昭和18年3月3日

在仏印栗山事務總長より  
谷外務大臣宛(電報)

仏國の対重慶断交に伴う影響に關しドクー及  
び仏印外交部長との会談について

ハノイ 3月3日後発  
本省 3月4日前着

第五九號

佛發貴大臣宛電報第八四號ニ關シ

一日「ドクー」總督ヲ往訪シ二月二十一日在佛大使ト「ラ  
バル」主席トノ會談ニ言及シ同大使カ帝國政府ノ訓令ニ依  
リ佛國政府ニ對シ政策決定方ヲ申入レタルニ對シ同主席ハ  
「ドクー」總督ヨリ意見ノ具申アリタル旨ヲ語リ居ルニ付  
意見ヲ交換スル爲來訪シタリト告ケタルニ同總督ハ自分ハ  
右會談ノ次第ハ極メテ簡單ナル電報ニ接シタルノミナルカ

「ボンクール」ハ「ラバル」ノ言フ如ク單ニ儀禮的存在ニ  
過キスシテ佛國ハ實質的ニハ重慶ト外交關係ヲ有セサルモ  
重慶、雲南及龍州ニアル領事ノ情報ハ無視出來サルモノア  
リ殊ニ外交關係ノ斷絶ニ依リ佛印支國交ニ如何ナル重大ナ  
ル影響アルカ豫測シ得サルモノアリ之ハ佛印總司令官モ同  
意見ナリ若シ左様ナ出來事アラハ日本軍側トシテモ船腹不  
足ノ此ノ際再增强ヲ餘儀無クセサルヘカラサルヘク旁重慶  
政權内ニ佛ノ利益擁護ノ必要モアリニ重外交ヲ弄スル次第  
ニ非ルモ前記ノ理由ニ依リ重慶トノ絶縁ノ利益ヲ認メサル  
次第ナリト述ヘタリ依テ本官ハ貴總督ノ懸念ノ要點カ一ハ  
佛印國境ノ靜謐ト次ハ佛利益擁護ノ二ナル處前者ニ付テハ  
在佛印日本軍司令官ハ其ノ懸念無シトノ意見ナリ本官モ亦  
國境方面ノ匪賊行爲ハ數世紀來存在スルモノニシテ「ゲリ  
ラ」ト異リ又「ゲリラ」ハ支那領土ニ於テハ存シ得ヘキモ  
佛印内ニ便衣隊カ侵入スヘシモ思ハレス殊ニ日本軍司令  
官ハ其ノ心配無シトノコトナレハ此ノ點佛印軍總司令官ニ  
於テ意見ヲ交換シテ然ルヘク又第二點佛國利益ニ付テハ佛  
印側カ多年ノ經驗ニ基キ雲南政權ヲ懷柔スルニ巧ニシテ其  
ノ經驗ニ依リ或ハ我方ト協力シ雲南引離シヲ爲ストカ等ノ

## 二 対仏印關係

方法ニ依リ實際的ニ擁護スヘキ策モアルヘク宣教師ノ如キハ國交斷絕後モ居住シ得ルヤモ知レス貴總督ノ意見ハ「ヴィシー」政府ニ重キヲ爲スヘキヲ以テ日本ノ對支政策ニ同調セラレントヲ望ム旨ヲ述ヘタリ總督モ「モルダン」司令官一週間後ニ歸河スヘキヲ以テ日本軍司令官ト意見ヲ交換セシムヘキ旨ヲ答ヘ(此ノ點日本軍司令官ニ連絡済)又雲南工作ニ付テハ雲南鐵道ノ雲南駐在員ハ龍雲側トノ關係ハ良好ナルモ蔣介石ハ龍雲側ヲ信用セスシテ直系軍ヲ佛印國境方面ニモ配置シ居リ龍雲ハ尙雲南政府ニ居ル筈ナルモ最近ノ情勢ヲ詳知セス從テ雲南工作ハ容買ニアラス在雲南同鐵道駐在員ノ意見ヲ徵スルモ可ナリト答ヘタリ

次テ二日外交部長來訪本官ヨリ本件ニ言及シタル處同部長ハ佛印側トシテハ在支佛國利權ノ全貌ヲ知ラス「ドクー」總督ノ意見ハ素ヨリ計算ニ入レラルヘキモ對支政策ノ一部ヲ擔當シ居ルニ過キス全體ハ「コスマ」ノ意見カ重キヲ爲スモノナル處重慶ニ「アクリデット」サレ居ル「コスマ」ノ存在カ不思議ナリ又「ボンクール」ノ重慶駐在ハ全ク儀禮的ノ存在ニシテ正シク何等ノ情報ヲモ發シ居ラス恐ラク重慶政府トノ接觸モ無キコトト思ハルト述ヘ居レリ

方法ニ依リ實際的ニ擁護スヘキ策モアルヘク宣教師ノ如キ

佛ニ轉電セリ

佛ヨリ獨、伊ニ轉電アリタシ  
大東亞大臣ニ轉報アリタシ

南大、北大、上大ニ轉電アリタシ

649 昭和18年3月7日 在仏國三谷大使より  
谷外務大臣宛(電報)

仏國の南京国民政府承認及び對重慶斷交に關  
し同國外務次官と會談について

ヴィシー 3月7日前發

本省 3月8日後着

第一二〇號

六日朝本使「ロシア」次官ニ面會

一、貴電第七六號ノ次第申入レタル處之ヲ了承シ且謝意ヲ表  
セリ

二、南京政府承認ノ件ハ「ラバル」巴里出張中ニ付其ノ歸還ヲ待チ決裁ヲ仰キ來週中頃ニハ同首相ヨリ御返事スル運ヒトナルヘキ旨ヲ語ルト共ニ過日ノ佛宣言ハ南京政府ヨリ友誼的措置トシテ歡迎セラレ重慶ヨリハ抗議ヲ受ケタ

ルカ現在貴軍ノ廣州灣進駐在「ヴィシー」支那大使館員引揚(家族ヲ併セ約五〇名六日中ニ佛西國境通過ノ筈)アリ事ハ事實上貴意ニ副フ方法ニ運ヒツツアリ首相ノ政策モ亦判然右ノ線ニ依ルモノナリ未タ「ラ」ノ裁斷ヲ受ケタルニハアラサルモ重慶側ヨリハ外交代表ヲ全部引揚ケ領事館モ置カス唯雲南ニ殘存權益保護ノ爲ノ事務所ヲ殘置シ一方南京ニハ公使又ハ代理公使ヲ置キ事實上南京政府ヲ承認スルモ重慶トノ目立チタル外交斷絶ヲ避ケ寧口先方ノ「イニシアチーブ」ヲ待ツコトシ度ク考ヘ居レリト述ヘタリ仍ソテ本使ヨリ孰レ首相ヨリノ御話ヲ俟ツヘキカ貴方ノ政策カ我方ニ二重政策トシテ映シ居ルニ付之ヲ更ムルコト貴方ノ爲ニモ亦利益ト成ルヘシト答ヘタル處決シテ二重政策ヲ行ハントスルモノニ非ス其ノ點ハ明瞭ナルカ唯重慶側ニ利權殘存スルモノアルト共ニ印支ニ關シ軍ノ保障アレハ問題ナキ理ナルモ「ドクー」ハ政策ノ大體ニ就テハ同感ナルモ其ノ立場上重慶ヨリノ攻擊殊ニ空爆ヲ怖レ居リ旁南京政府承認ノ方向ニ進ミ乍ラモ其ノ方法ヲ餘リ荒立テサル様苦心シ居ル次第ナリト述ヘタリ

三、尙「コスマ」大使ハ如何セラルルヤト問ヒタル處同大使ハ克ク新事態ヲ了解シ居リ個人的ニハ何等ノ非難ナキモ今迄重慶ニ代表タリシ人ヲ南京ニ代表タラシムルコトハ餘リニ極端ニシテ面白カラサルニ付印支ニ引揚ケシメンカト考ヘ居レリト語レリ河内ニ轉電セリ南京へ轉電アリタシ

650

昭和18年3月17日 谷外務大臣より  
在仏国三谷大使宛(電報)

仏租界返還の迅速かつ円満な実施を仏国側へ

要請方訓令

本省 3月17日後8時発

第八六號(至急)

往電第七六號ニ關シ

其ノ後在支帝國租界還付ニ關スル日支交渉ハ急速ニ進展シ十四日南京ニ於テ兩國委員間ニ右還付實施ニ關スル細目取極ノ調印ヲ了シ右取極ニ基キ八個所ノ帝國租界ハ本月三十日ヲ以テ還付セラルルコトトナレリ就テハ貴使ハ責任國政

## 二 対仏印關係

府ニ對シ右日支間交渉ノ進展振ヲ通報セラルト共ニ曩ニ  
貴任國政府カ原則的ニ同意ヲ表明セル在支佛租界返還等ノ  
迅速且圓滿ナル實施ヲ計ル爲(廣東、天津、漢口ニ付テハ  
本月三十日ノ返還ヲ切望ス)必要ナル訓令ヲ在支佛官憲ニ  
發出方再應要請セラレ結果回電アリタシ

参考トシテ獨、伊、瑞西ヘ轉電アリタシ  
南大、上大、北大、廈門ヘ轉電セリ

~~~~~

651 昭和18年3月18日 在仏國三谷大使より
谷外務大臣宛(電報)

仏租界返還及び南京国民政府正式承認に関する

ラヴァルとの会談について

ヴィン - 3月18日後発
本 省 3月20日前着

第一三三號(至急)
貴電第八六號ニ關シ

十八日午後直ニ「ラバール」ニ面會(「ロシヤ」同席)

一、貴電ノ趣旨ヲ申入レタル處委細承知ノ旨ヲ答へ既ニ「コ
スム」ニ地方的ニ話合ヲ進ムル様訓令セルカ更ニ廣東、

漢口、天津ノ三租界ニ付テハ三月三十日迄ニ返還方取計
フ様訓令スヘク北京公使館區域ニ付テモ重光大使ニ面會
セル「コスマ」ヨリ來電アリ之亦話ヲ進ムル様措置スヘ
シ

二、南京政府承認、重慶斷交ノ件ニ付テハ元來佛國ハ印支問

題ニ就テモ總テ貴方ノ申出ニ應シ最近「ドクー」ハ經濟

問題ニ付極限迄貴方ノ申出ニ同調シタル次第ニテ支那問

題ニ付テモ前項ノ實例ノ示スカ如ク總テ貴方ノ申出ニ應

シ南京政府トハ實際上協調シ行クヘク其ノ結果重慶ヨリ

國交斷絶ヲ申入レ來ラハ素ヨリ望ム所ナリ然レ共當方ヨ

リ進ンテ斷交ノ措置ヲ取ルコトハ例ヘハ之ヲ機トシ支那

側カ印支ヲ空襲スルカ如キ事アラハ「ラバール」カ日本

ノ壓迫ニ負ケ又手ヲ燒キタリト言フコトニ成リ自分トシ

テ是非之ヲ避ケタシ結局事實ニ於テハ貴方ノ希望セラル

ル通り進ムヘキモ主義上斷交ノ責任ハ重慶ノ責メニ歸シ

タシト述ヘタルニ依リ本使ヨリ印支ニ就テハ重慶ハ何時

ニテモ之ヲ攻擊スル理由アリ斷交シタレハトテ必スシモ

印支ノ危險ヲ増大スルモノニ非ス
又南京政府ト前記ノ如キ交渉ヲ進メラルレハ遲カレ早カ

レ之ヲ承認セサレハ何トモナラサル立場ニ至ルヘシト報

ヒタル處實際ノ必要ニ應シ南京政府ニ對シテ執ル措置カ

重慶トノ斷交ヲ招來スルモ右ニハ何等異議ナシ要スルニ

自分トシテハ貴方申出ニ根本ニ於テ異議ナキモ其ノ方法

トシテ漸進主義ニ依リ事實上御希望通リノ結果ニ到達セ

ントスルモノナリ而シテ重慶トハ形式的ナル現在ノ關係

以上同等公然ニモ祕密ニモ聯絡ヲ取ラサルコトヲ誓言ス

ト答ヘタリ

三、惟フニ「ラ」ハ防禦力無キ佛トシテハ已ムヲ得サル結果ハ之ヲ甘受スルモ自ラ進ンテ斷交ノ如キ措置ヲ執ルコトハ避ケントスル方針ヲ堅持シ居ルモノト思ハレ我方トシテモ今後租界返還、治外法權撤廢等ノ交渉ニ伴ヒ實際上南京政府ヲ承認セサルヘカラサル如ク佛ニ仕向クルコト可然シト存ス尙同席ノ「ロシヤ」ハ結局遠カラス南京政府承認ニ至ルヘシトノ意見ヲ述ヘ居タリ

獨、伊、瑞西、河内へ轉電セリ
南大へ轉電アリタシ

652 昭和18年3月27日 谷外務大臣より
在仏国三谷大使宛(電報)

租界返還等の迅速実施を現地機關へ指導する

よう仏國側へ再応要請方訓令

本省 3月27日後10時發

第九六號(大至急)

在支大使發本大臣宛電報K第一二五號ニ關シ

「ラバール」ハ廣東、漢口、天津ノ三租界ニ付テハ三月三十日迄ニ返還方取計フ様在支佛官憲ニ訓令スヘキ旨明言シ居ルニ拘ラス(貴電第一三三號)在支佛大使ハ右租界ノ返還ヲ同日迄ニ間ニ合ハスコト出先官憲トシテ不可能ナリト稱シ居ル處(冒頭電參照)極祕情報ニ依レハ「コスマ」ハ在支特權返還問題ニ付「タリアニ」伊大使トノ間ニ情報ヲ交換シ且協議ヲ遂ケ居ル形跡アリ右佛出先ノ態度ハ天津租界問題ニ關スル伊側態度ヲ反映シ居リ或ハ佛伊共同戰線ヲ張リテ各自國租界ノ還付ヲ遷延セントノ意圖ニ出ツルモノトモ認メラル就テハ貴使ハ左記「ライン」ニ依リ佛租界返還等ノ急速實施方竝ニ右ニ必要ナル訓令ヲ佛出先ニ發出方責任國政府ニ對シ再應強ク要請セラレ結果回電アリタシ

一、北京公使館區域ノミナラス天津、漢口、廣東三租界並ニ

廈門共同租界行政權ノ還付ヲモ三月三十日迄ニ實施セラ

レタキコト

二、各租界共種々複雜ナル事情アリテ出先官憲トシテハ之ヲ

無視シ得サルヘキハ一應尤モナルモ佛政府ニ於テ大局見

地ヨリ右一ノ如ク決定アリタキコト且租界等還付ノ準備

完了ヲ俟チ之ヲ實施スルカ如キ方式ヲ採用セス兔角形式

的ニハ還付ヲ實施シ然ル後必要ナル調整ヲ地方的ニ行フ

ノ方式ヲ採用スル方事態ニ適スルコト

三、本件實施ト國府承認問題トヲ必スシモ關聯セシムルノ要

ナキコト寧口國府承認問題ト切離シ本件ヲ別個ニ急速實

施スルコトヲ我方モ中國側モ希望シ居ルコト

四、本件實施遲延ノ佛側ニ及ホスヘキ不利ニ付テハ本大臣發

伊宛電報第一〇四號在京伊大使ニ對スル本大臣ノ論旨ヲ

一層強ク申入レラレ差支ナシ

南大、上大、北大、天津、漢口、廣東、廈門ニ轉電セリ

冒頭電報ト共ニ伊ヘ轉電アリタシ

~~~~~

653

昭和18年3月28日 在仏国三谷大使より

谷外務大臣宛(電報)

租界返還等の迅速実施を現地機關へ指導方仏

國政府へ申入れについて

ヴィシー 3月28日後発

本省 3月30日前着

第一四八號(緊急)  
貴電第九六號ニ關シ

二十八日午後四時半「ロシア」次官ニ面會(「ラバル」)巴里

出張中)御來示ノ次第ヲ申入レタル處「ロ」ハ先日本使申

入レノ次第八當時直ニ「コスマ」ニ訓令シ置キタルカ種々

通信ノ不便モアリ或程度同大使ノ判斷ニ委セタル點モアリ

又同大使來電ニ依レハ在支日本官憲ハ日本側措置ト併行シ

テ佛側ニ於テモ措置スルコトヲ希望セラレ居ルモ日附ノ點

ハ必スシモ兩三日ノ間キラ爭ハルモノニ非サルカ如キ意

嚮ト了解セラルト述ヘタルニ付本使ノ受領セル訓令ニ依レ

ハ必要ナル調整ハ後日ニ讓ルモ少クモ主義上前記期日ニ還

付ヲ實施スルコト日本政府ニ於テ特ニ重視スルモノナルコ

ト明カナル故ニ至急北京公使館區域ノミナラス天津、漢口、

廣東竝ニ廈門共同租界行政權還付ヲ三月三十日迄ニ實施スル様訓電ヲ發セラレタキ旨強ク要請シ置キタリ「口」ハ目下「ラバル」不在ニテ都合惡キモ首相ノ意嚮ハ明カナルニ付貴意ニ副ヒ直ニ電報スヘシト答ヘタリ

河内へ轉電セリ

南大へ轉電アリタシ

編注 仏國による租界返還等の実施日については、本書第137

文書付記三を参照。

654 昭和18年9月6日 重光外務大臣より  
在仏國三谷大使宛(電報)

重慶政権の対ヴィシー断交後における仏印の  
對重慶態度について

本省 9月6日後7時30分発

第一四二號

往電第一四一號ニ關シ

一、重慶政府ハ曩ニ「ヴィシー」政府トノ斷交ヲ實行シ最近米英ニ做<sup>(微カ)</sup>ヒ「アルジエ」佛國解放委員會ヲ承認セリ而シ

テ同委員會ハ佛領印度支那ヲ其ノ傘下ニ收メントシ既ニ宣傳ヲ開始セル情況ナリ

二、「ヴィシー」政府ノ對重慶態度ヲ檢討スルニ「ラヴァル」

ハ夙ニ貴官ニ對シ佛側カ南京重慶双方トノ關係ヲ維持セ

ントスル態度ノ不徹底ナルコトヲ率直ニ認メツツモ重慶

地區ニ於ケル佛側<sup>(繩カ)</sup>權益保全ノ見地等ヨリ自ラ進シテ斷交

スルコトハ差控ヘ度キモ重慶ノ仕掛けルヲ待ツコトシリ

度旨述ヘタル經緯アル處(「ヴィシー」來電第一六九號)

今ヤ右「ラ」ノ希望セル條件ト完全ニ整ヘタルモノト言

フヘシ加フルニ支那ニ於ケル佛國ノ特權ノ整理ニ就テモ

最早從來ノ如ク國民政府トノ正式取極ヲ避ケルカ如キコ

トハ不可能ノ狀態ニ立至レルモノニシテ此ノ點「コスマム」

ノ如キハ充分ニ認識シ居ル處ナリ(北京發本大臣宛電報

K第八七號)

三、然ルニ佛印政廳側ノ對重慶態度ハ從來ヨリ最モ保守的ニシテ最近ノ事態ニ拘ラス依然佛印國境ニ近接セル重慶地區ニ對シ領事關係ヲ維持セントシ居ル處右ノ如キハ我方トシテ默認シ得サル處ナリ(重慶カスル「ヴィシー」側代表ノ居殘リヲ容認スルコトアリ得ヘキモ彼等ヲ通シ譲

報謀略工作ヲ試ムヘク前例ニ鑑ミルモ彼等カ「アルジエー」

側ニ寝返ヘル危険大ニシテ在佛印日本軍トシテモ安心シ

得サル次第ナリ更ニ斯ル佛印政廳側ノ不明朗ナル態度

ハ自然其ノ對日協力ニ對スル不熱心ノ形ニ於テ表現シ來

リ後ニハ最近ニ於ケル芳澤「ドク」交渉等ノ事態ヲ招

來セル重要ナル一因トナリ

以上貴大使交渉上ノ御参考迄

~~~~~

655 昭和19年1月24日 大本營政府連絡會議決定

「情勢ノ變化ニ應スル對佛措置腹案」

● 情勢ノ變化ニ應スル對佛措置腹案

一、對佛印措置

1. 帝國ハ現下ノ情勢ニ於テハ佛印ノ靜謐保持ノ既定方針

ヲ堅持ス而シテ現住民ノ民族運動ヲ誘發スルカ如キコ

トハ之ヲ避クルモノトス

2. 佛本國カ親樞軸的獨立國タルノ實ヲ失ヒタル場合ニ於

テハ佛印ヲ佛本國ヨリ實質的ニ離脱セシム尙其ノ時期

及方法ハ別ニ之ヲ定ム其際情勢真ニ已ムヲ得サルニ於

テハ武力ヲ行使スルコトアルヲ豫期シ諸般ノ準備ヲ整
フ

何レノ場合ニ於テモ極力現佛印統治機構ヲ活用スルニ

努ムルモノトス

三、廣州灣租借地竝ニ其ノ他ノ在東亞佛國人佛國軍隊權益等

ニ關スル措置

差當リ現狀ニ變動ヲ加ヘシメサルモノトシ帝國ノ佛印

處理ヲ事前ニ暴露セサル如ク措置ス

三、對佛本國措置

獨ノ施策ニ順應ス

~~~~~

656 昭和19年6月9日 在仏印芳澤大使より

青木大東亞大臣宛(電報)

ヴィシー政府の崩壊を見越し今後の仏印政策請訓

ハノイ 6月9日後9時00分発

本省 6月12日後1時55分着

● 第四九二號(館長符號扱、極祕、大至急)

歐洲第二戰線結成ノ爲ノ上陸作戰ハ愈々開始セラレタル處  
右ガ果シテ成功スルヤ否ヤハ遽ニ豫斷ヲ許サズ今後數日ノ

間ニ恐ラク北佛ニ於テ一大激戦行ハルベク萬事ハ其ノ結果ヲ待タザレバ決定シ難キモ英米軍ガ佛本國ノ一部ニ上陸シタルコトハ事實ナリ故ニ其ノ植民地タル佛印ノ前途ニ付我ガ方トシテモ遺憾ノナキ方針ヲ考慮シ置クコトハ國家ノ急務ト存ゼラル處去ル一月二十四日決定ノ御方針中ニハ「佛本國ハ親樞軸的獨立國タルノ實ヲ失ヒタル場合ニ於テハ佛印ヲ佛本國ヨリ實質的ニ離脱セシム其ノ時期及方法ハ別ニ之ヲ定ム其ノ大乘精神ニ已ムヲ得ザルニ於テハ武力ヲ行使スルコトアルヲ豫期シ諸般ノ準備ヲ整フ何レノ場合ニ於テモ極力現佛印機構ヲ活用スルニ務ムルモノトス」トアリ右ヲ我方政策ノ基調トシ今日迄萬事對處シ來タレルガ本使個人トシテハ右ニ對シ若干ノ意見ヲ有シ居ル次第ナリ御承知ノ通佛印ニ於テハ治者ハ佛人ニシテ被治者ハ安南民族等ノ原住民ナリ彼等ハ佛ニ對シテハ内心ニ深キ怨恨ヲ藏シ居ル狀態ニシテ右ハ比律賓等ニ於テ原住民ガ米ニ對シ種ノ愛着ノ情ヲ有シ居ルトハ全ク異ル點ナリ而シテ第二戰線ガ發展シ若シ樞軸軍ガ敗レルガ如キ場合ニハ「ヴィシー」政府ハ消滅スペク又樞軸軍ガ有利トナリ英米軍ガ慘敗セバ大體「ヴィシー」政府ハ存續センモ其ノ戰爭過程ニ於ケル

狀勢如何ニ依リテハ獨ハ「ヴィシー」ガ結局手足纏ヒトナルトノ考ヘヨリ獨自ラ同政府ヲ解體セシムル非常措置ニ出スルヤモ圖リ(現ニ今春)一月「リ」外相ガ「ペタン」元帥ニ送リシ書翰ハ可成激烈ナル字句ヲ用キ獨側ハ必ズシモ同元帥ノ地位保持ヲ固執シ居ルモノニアラザル趣旨ヲ表明シ居レリ)又本月七日ノ「ペタン」元帥ノ佛國民ニ告グル放送中ニモ戰鬪ノ狀況ニ應ジテ非常措置ヲ執ルコトアルベキ旨ヲ仄カシ居ル點ヨリ見レバ或ハ佛本國ニ軍政敷カルルヤニモ想像セラレザルニ非ズ斯クナレバ「ヴィシー」ノ主權ハ停止セラレ獨立國トシテノ機能ヲ喪失スル處其ノ植民地タル佛印ハ如何ニナルベキヤ今日迄「ドクー」總督ハ「ペタン」ニ忠誠ヲ誓ヒ來リタルモ若シ「ヴィシー」ガ獨立ノ實ヲ失フニ至ラバ「ドクー」ハ本國ヨリ遊離シ實體ノ無キ幻影ト化スペク被治者タル安南人等ヨリ見レバ斯カル幻影ニ支配サルルコトニ飽キ足ラザルハ當然ノ儀ナルベク又我方トシテモ之ト協力スルニ於テハ東亞ノ指導國大東亞宣言等云々ノ掛聲ハ全ク虛偽ニ過ギザルノ感ヲ深メシメ日本ニ對スル信賴ノ念ハ地ヲ拂フニ至ルベシ

右ハ理論上正當ナルモ實際政治ノ上ヨリ考察スレバ日本ハ

目下自己ノ死活問題タル大戦争遂行中ニシテ佛印ハ兵站基地トシテ重大ナル役割ヲ果シツツアリ之ヲ利用スル爲ニハ

佛印ノ現機構ヲ活用スルコト最モ便利ニシテ中央ニ於ケル

一月ノ決定ハ此ノ見地ヨリナサレタルモノナルベク理論ニ

拘泥シ難キ立場ハ良ク了解セラル所ナリ本來ナレバ安南民族ノ希望ニ副ヒ軍政ヲ布キ傀儡政府ヲ立テサセシムルコト良策ナランモ中央御方針ガ前述ノ通トセバ現「ドクー」

總督ヲ支持スルコトトナルベキガ之レ迄ハ「ド」ハ少シク難シキ問題トナレバ本國政府ニ請訓シ又ハ請訓ヲ口實ト爲シ居リ果シテ「ヴィシー」無キ後時々ニ於ケル責任ヲ取り得ベキヤハ頗ル疑問ナリ之等ノ問題ハ今後ノ時局ノ進展如何ニ依リ決定致シ度モ事態ハ或ハ豫測ヲ許サザル速度ヲ以テ發展スルヤモ計リ難キニ付總督府トノ折衝上ノ必要及今後ノ對佛印施策ノ爲本件ニ關スル政府ノ御方針ヲ篤ト拜承シ置キ度ニ付何分ノ儀至急御垂示相仰度御回訓ハ本使西貢ヨリ「ダラツト」ニ赴ク以前ニ拜受ヲ得バ幸甚ナリ

西貢、「ヴィシー」ニ轉電セリ

外務大臣ヘ轉報アリタシ

## 二 対仏印關係

657

昭和19年8月30日 上海

在上海矢野(征記)總領事より  
重光外務大臣宛(電報)

### 仏印の地位をめぐる仏國の両面政策に関する情報

第五八號

本省 8月30日後3時00分發  
上海 8月30日後5時20分着

當地佛側官邊ニ接觸深キ筋ヨリ得タル情報ニ依レハ「ドクー」將軍ノ補佐役ニシテ熱烈ナル「ドゴール」派タル「モルダン」將軍ハ停年ニ依リ退職シ且下佛印ニ居住シ居レルカ右ハ表面上ノコトニテ即チ「ヴィシー」當局ハ佛本國ニ於ケル政權ノ更迭ニ依リ日本カ佛印ヲ占領スル可能アルヲ慮リ今般「ドクー」將軍ニ非常全權ヲ與ヘ佛印ヲ自治國家トナシ日本其ノ他東亞諸國ト協調セシムル建前ヲ採リタルモ他方之ト同時ニ日本カ太平洋ニ於テ敗戰シ米國カ佛印ヲ占領スルコトアルヘキヲ想定シ若シスルコトカ實現セラル場合ハ直ニ「ドクー」將軍ノ地位ヲ奪ヒ佛印政權ヲ「モルダン」將軍ノ手ニ移シ「ド、ゴール」ニ服從ヲ宣言スルヲ以テ米國ヲシテ佛印領有ノ口實ヲ失ハシメスクテ戰局發展ノ方向如何ニ拘ラス佛印ヲ保全セントスル両面政策ニ出

テ居ル趣ナリ

御参考迄

河内大使、西貢大使府支部長へ轉電セリ

658 昭和19年9月4日

重光外務大臣  
在本邦コスム仏國大使  
会談

ヴィシー政府崩壊後の在本邦仏國大使及び大使との会談  
クーの立場に関する重光外相と在本邦仏國大使との会談

重光外務大臣「コスム」佛國大使會談

(昭和十九年九月四日)

九月四日重光大臣ハ在京「コスム」佛國大使ノ來訪ヲ求メ  
「ヴィシー」政府ノ地位、大使及佛印總督ノ立場等ニ關シ  
意見ヲ聽取セリ右概要左ノ通ナリ

一、在瑞西佛國公使經由ニテ「コスム」大使ガ本國政府ト覺  
シキ筋ヨリ接受セル八月二十日前後ノ日附ノ電報ニ依レ  
バ如何ナル場合ニ於テモ「ペタン」及政府ハ政府所在地  
ノ強制的變更ヲ拒絶スル方針ナリシ處二十日獨逸官憲ハ  
「ペタン」元帥ノ寢室ニ侵入シ強力ヲ以テ其ノ移轉ヲ行

ハシメタリ仍テ「ペタン」元帥ノ政府ハ最早存在セザル  
コト明カナリトシテ右電報ヲ根據トシテ獨逸側ノ強壓ニ  
依ラスシテ移轉ガ行ハレタルコト及「ペタン」政府ノ存  
續スルモノナルコトヲ否定シ若シ「ペタン」政府ガ依然  
存續シ居ルモノトスレバ何等カノ報道ヲ入手セル筈ナル  
ガ未ダ入手シ居ラズト述べタリ

二、「コスム」大使ノ地位ハ極メテ明カニシテ佛本國臨時政  
府トノ間ニ何等ノ關係ハナク正統政府ノ出現迄ハ尙相當  
ノ期間ヲ要スベキモ夫レ迄ハ現在ノ如キ不安定ノ地位ニ  
在ルベク正統政府出現ノ際ニハ全國民之ニ服從スルコト  
トナルベキモ政府ガ對日政策ニ關シ同大使ノ意見ニ反シ  
對日斷交若ハ宣戰等ヲ行フ場合ニハ即時辭職スル覺悟ナ  
ル旨並ニ在支外交官及領事官等モ同大使ノ管轄下ニ在リ  
テ其ノ行動ヲ共ニスル筈ナリト説明セリ

三、「ドク」佛印總督ハ曩ニ「ペタン」國家主席ヨリ委讓  
セラレタル權限ニ依リ或ル意味ノ獨裁ヲ表明シ居ル關係  
ヨリ獨自ノ見解ニ基キ對日協力ヲモ含ム行動ノ自由ヲ留  
保シ居ル譯ニテ此點政府ヲ失ヒタル「コスム」大使ヨリ  
モ樂ナ立場ヲ有スル次第ナリ「ドク」總督ハ臨時政府

659

トハ勿論無關係ナルモ正統政府ガ樹立セラルル場合ニハ  
 佛印ハ同政府ニ所屬シ佛國ノ植民地タル點ニ於テハ從來  
 ト變リナキヲ以テ日佛印關係ニハ正統政府ノ對日關係ガ  
 反映スルコトトナリ從テ總督ノ自由ニ決定シ得ザルコト  
 トナルベシ(尤モ場合ニ依レバ「ドクー」ガ辭職スルコ  
 トハアルベシト思ハル)臨時政府又ハ北阿政權ガ日本ト  
 佛印間ノ條約ノ無效ヲ宣言セリトノ情報ニ關シテハ未ダ  
 聞知シ居ラズ云々

トハ勿論無關係ナルモ正統政府ガ樹立セラルル場合ニハ

腹案概ネ左ノ如シ

(一) 佛印總督力對日協力ヲ續クル場合

(イ) 概ネ現狀ヲ維持ス

(ロ) 我方ハ既存日佛條約ニ拘束セラレサル建前ヲ採ルモ  
 事實上右條約ニ基クト同様ナル關係ヲ繼續ス

(ハ) 佛印ノ法律的地位、佛國旗ノ使用等ノ問題ハ佛印總  
 督ヲ協力セシムルノ趣旨ニ依リ特ニ之ニ觸レサルモ  
 ノトス

(二) 佛印總督首腦部カ對日協力繼續ヲ不可能ナリトシ平  
 穩裡ニ辭職ヲ申出ル場合

(イ) 佛印ヲ我軍ノ管理下ニ置クモ差當リ統治機構ハ爲シ  
 得ル限り之ヲ活用スルニ努ム

(ロ) 佛印軍ニ付テハ要スレハ平穩裡ニ武裝解除ヲ行フ  
 (ハ) 在佛印佛國人ノ權益ニ付テハ穩健ナル取扱ヲ爲ス

(三) 佛印官憲乃至佛印軍カ我方ニ離反抵抗シ情勢眞ニ已ム  
 ヲ得サル場合

(イ) 武力ヲ行使シテ佛印ヲ占領ス

武力行使ノ時期ハ別ニ之ヲ定ム

(ロ) 在佛印佛國人中我ニ協力スルモノハ之ヲ活用スルニ

一、當面佛印ニ對シテハ現狀ヲ維持セシムルモ事態急變ニ應  
 スル爲所要ノ準備ヲ爲スモノトス

●情勢ノ變化ニ應スル對佛措置ニ關スル件

付 記 昭和十九年十一月二日付、外務省作成

重光外相より最高戰爭指導會議に提出した仮

印問題に関する覚書

二、統一政府樹立セラルル等事態ノ變化ニ應スル對佛印措置

努ム

(ハ) 原住民ノ政治參與ヲ促進ス

佛印ノ歸屬ハ別ニ定ム

三、廣州灣租借地其ノ他在東亞佛國人、佛國軍隊權益等ニ對

シテハ佛印ニ準シテ措置ス

四、佛本國ニ對スル措置

對佛印施策ニ支障ヲ與ヘサル限り概ネ獨ノ措置ニ順應ス

備考

佛本國ニ統一政府樹立セラルル場合トハ米英勢力下ノ佛  
本國ニ憲法ニ基ク正統政府樹立セラルカ又ハ米英等ニ  
ヨリ正式ニ承認セラレタル政府カ樹立セラルル場合ヲ指  
スモノトス

### (付記)

覺書

佛印問題

(一九、一二、二一 外務省)

一、米英ノ庇護ノ下ニ在ル巴里「ドゴール」政府ハ曩ニ帝國  
ニ對シテ已ニ戰爭狀態ニ在リト聲明セシコトアリシカ、  
米英蘇及其ノ與國ハ十月二十三日正式ニ同政府ヲ佛國暫

定政府トシテ承認シ茲ニ同政府ノ地位ハ明瞭トナリタリ。

他方南方獨逸「ジグマリンゲン」ニ避難セル「ペタン」  
元帥ノ舊政府ハ解消同様ノ狀態ニシテ、佛國利益保護委  
員會ナルモノモ未タ活動シ居ラサル有様ナリ。

仍テ佛印ハ單ニ「ドクー」ノ一存ニテ行政ヲ運用シ居ル

狀態ニシテ佛印ヲ如何ニ處分スルヤハ今ヤ帝國政府ノ考

慮スヘキ緊急ノ問題トナリタリ。

二、佛印ハ今日帝國政府ノ消極的態度ニ依リテ其ノ現狀ヲ戰  
局ノ終局見透シ確實トナル迄維持シ、之ヲ佛領植民地ト  
シテ將來ニ瓦リ確保セント試ミ居ル次第ナリ、彼等ハ米  
英ノ勝利ヲ見越スカ故ニ何時日本軍隊トノ協力ニ於テ其  
態度ヲ變更シ米英ノ意ヲ迎ヘテ將來有利ノ情勢ヲ作ラン  
トスルヤモ計リ難ク、形勢ハ容易ニ樂觀ヲ許サス。

他方日本側ト協力スル佛印ノ内部ヲ攬亂スル爲メニ重慶  
昆明方面ニ依據スル共產系及國民黨系ノ安南獨立派ノ暗  
躍ハ米英ト蘇聯トノ提携ノ世界一般戰局及支那ニ於ケル  
國共合作情勢ニ應シテ益々危險ノ狀況ニ進ミツツアリ。  
三、以上ノ形勢ニ應シ佛印ニ對スル帝國ノ態度ハ帝國ノ權威  
ヲ擁護スル爲メヨリ云フモ軍事ニ應シ早急ニ決定スルノ

要アリ。而シテ我大東亞ニ對スル根本政策ハ已ニ決定シ

大東亞宣言ニ表示セラレ居レリ。即チ大東亞ニ於テ各民族ヲシテ各々其所ヲ得セシムルニ在リ。仍テ我背後ノ援助ニ依リ先ツ安南ニ獨立ヲ恢復セシムル肚ヲ決メ之ノ方

向ニ向シテ政治上軍事上ノ準備ヲ進メ適當ノ時機ニ之ヲ實現スルニ遺憾ナキヲ期スルコト肝要ナリ而シテ軍事ニ付テハ統帥部ニ於テ外交方面ハ外務省ニ於テ獨立ニ關スル諸細目ハ軍、外務省及大東亞省(出先機關ヲ含ム)ニ於テ各々連絡ヲ保持シ擔當スルモノトス。

660

昭和19年12月12日

重光外務大臣より  
在ソ連邦佐藤大使宛(電報)

### 仏ソ同盟相互援助条約締結に關しド・ゴール 政権の対日姿勢につき調査方訓令

本省 12月12日後7時発

第一七九三號(大至急、館長符號)

一、蘇政府ノ公表ニ依レハ同政府ハ「ド、ゴール」政権トノ間ニ相互援助同盟條約ヲ締結セル模様ノ處情報ニ依レハ右ハ對獨關係及歐洲關係ニ局限セルモノニシテ東亞方面

ニハ適用ナク其ノ政治的目的ハ差當リ英國ノ提唱ニ係ル西歐「ブロツク」政策ヲ破壞スルニアリテ蘇ノ西歐進出ヲ容易ナラシメントスル魂膽ニ出ルモノト認メラル

二、「ド、ゴール」政府ノ對日態度ハ今日迄米英ト協調スルモノアリ又佛政府ノ日本ニ對スル立場ハ佛印問題ト關聯シ重要ナル意義ヲ有スルコトハ申スマテモナキ儀ナルニ付左記諸點我方ノ承知シタキ所ヲ御含ミノ上至急ソ側當局ト御折衝相成本條約ノ意義及ヒ更ニ進ムテハ出來得ル限り「ド、ゴール」政権ノ立場乃至帝國ニ對スル態度ヲモ確メ詳細折返シ電報アリタシ

一、本條約ハ東亞方面即チ帝國ト米英トノ戰爭ニハ如何ナル關係アリヤ

二、東亞乃至帝國ニ關スル問題ニハ關係ナシトルモ佛印ノ地位トモ關聯シ我方シテハ多大ノ關心ヲ有セサルヲ得ス「ド、ゴール」政権ハ大東亞戰爭ニ對シ蘇ト同様中立關係ニ立ツ次第ナリヤ蘇ヲ通シテ此點ニ付キ「ド、ゴール」政権ノ立場ヲ承知シタシ

三、又若シ敵側ノ宣傳スル如ク帝國ニ對シ現ニ又ハ將來交戰關係ニ立ツモノナラハ帝國トシテモ自ラ之ニ對處セサル

~~~~~

661 昭和19年12月21日

在ソ連邦佐藤大使より
重光外務大臣宛(電報)

仏ソ同盟相互援助条約締結の仏印に与える影

影響に関するソ側説明について

モスクワ 12月21日後9時42分発

本省 12月23日前11時40分着

第二六〇六號(館長符號、大至急)

貴電第一七九二號第一七九三號ニ關シ

二十一日本使「ロゾフスキイ」ニ面會左ノ通り申入ル

本日ハ過日發表セラレタル蘇佛同盟及相互援助條約ニ付御尋ネセントス發表セラレタル條約文ニ依レハ問題ハ歐洲ニ於ケル蘇聯ト佛國臨時政府トノ關係ヲ律シタルモノニシテ東亞ニハ關係ナキモノノ如ク解セラレ又斯ク解シテ誤ナシト思考セラル御承知ノ通り佛國ハ東亞ニ大ナル植民地ヲ有シ從テ大東亞戰爭ニ直接ノ關係ヲ有スル處佛臨時政府ハ是迄大東亞戰爭ニ於ケル日本トノ關係ニ付公式ニ聲明乃至宣言ヲ爲シタルコトナク從テ佛國ノ對日關係明確ナラス尤モ

宣傳ノ上ニテハ曰佛ハ戰爭狀態ニアリト放送シ居ルモ未タ佛臨時政府ノ公式ノ發表ヲ見ス右ノ關係ヨリ直般發表ノ蘇佛條約ハ極東ニ何等關係アリヤ否ヤニ付日本ハ利害關係ヲ有スル次第ニシテ此ノ爲本日貴代理ノ意見ヲ御尋ネルモノナリ

右ニ對シ「ロ」ハ蘇佛同盟條約ハ發表セラレタル丈ノ内容ヲ有シ夫レ以外何物モナシ即チ歐洲ニ於ケル獨逸トノ戰爭ヲ目的トシ居レリ成ル程獨逸ハ日本ノ同盟國ナルモ貴大使モ御承知ノ如ク蘇聯カ獨逸ヲ侵略シタルニアラスシテ獨逸カ侵略國ナリ(「ロ」ノ言ハ本使ノ質問ニ直接關係ナキ所ナルモ彼ノ言ヲ其ノ儘記述ス)本條約ハ「ヒツトラー」獨逸ヲ壞滅セシメントスル方策ノ一ナリ他方佛國ノ東亞ニ對スル態度ニ至リテハ右ハ佛國政府若クハ佛印政府ノ關與スル問題ニシテ蘇聯政府ノ問題ニアラス依テ日本政府ハ寧口佛國政府又ハ佛印現地官憲ヨリヨリ好キ情報ヲ得ラルルコト思考スト答フ

本使ハ之ニ對シ右御説明ニ依リ事態ハ明白トナレリ本使モ多分御説明通リノ事情ナルヘシト想像シ居タリト述へ置キタリ

實ハ本件ハ次回「モロトフ」トノ會談ノ際先方ノ態度打診
ノ一手段トシ度キ心組ナリシモ「モ」病氣ノ爲「ロ」ニ面
談(以下五語脱)タル談話ヲ試ミルモ意味ナシト感シタルニ
依リ右ノ程度ニ止メ置キタリ何レ「モ」ト會見シ得ルニ至
ラハ何トカ蒸返シ度ク存シ居レリ
尙「モ」ハ惡性ノ「グリツプ」ニ冒サレ閉籠リ中ナル由
「ロ」語レリ又「ロ」自身モ往來ニテ滑リ顛倒シタル爲數
日間靜養ヲ要セリト附言セリ